[illegible]紅花

七月號

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

Digitized by Google

Original from
CORNELL UNIVERSITY

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

番紅花第一卷第五號

目次

レッシング座で見た芝居……小山内薫……（一）
女優片々草……松居松葉……（一四）
人形芝居について……小澤愛圀……（三一）
オッフェンバッフハ……原信子……（二九）
忘れてきたシルクハット（戯曲）……森林太郎譯……（三六）
中性論……青山菊榮譯……（五五）
盲樂師（小說）……青山菊榮譯……（七七）
甘き呪（詩）……八木さわ子……（九〇）
墺太利の貴婦人（小說）……かみちか・いち……（九七）
動搖（小說）……菅原初子……（一一〇）
いたづらな雨（詩）……尾竹一枝……（一三七）

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

編輯室より……同人……（一四三）
新刊紹介……（一四五）

挿繪

1 ローレンス・アヴキング夫人
2 リリア・マッカアシー孃
3 「薔薇の精」
4 アリーヌ・サンデン孃
5 タンゴ踊
6 オー・ウキー・グソヴスカヤ孃
7 「稻妻」
8 「ピーア・ギント」
9 レジャーヌ夫人のカリカチユル
10 サラ・ベルナール夫人のカリカチユル

以上

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

五月上旬アイルランド女皇號の沈沒のため不慮の最後な遂げたる英國名優
ローレンス・アーヴヰング氏夫人（藝名マベル・ハツクネイ孃）

Digitized by Google

Original from
CORNELL UNIVERSITY

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

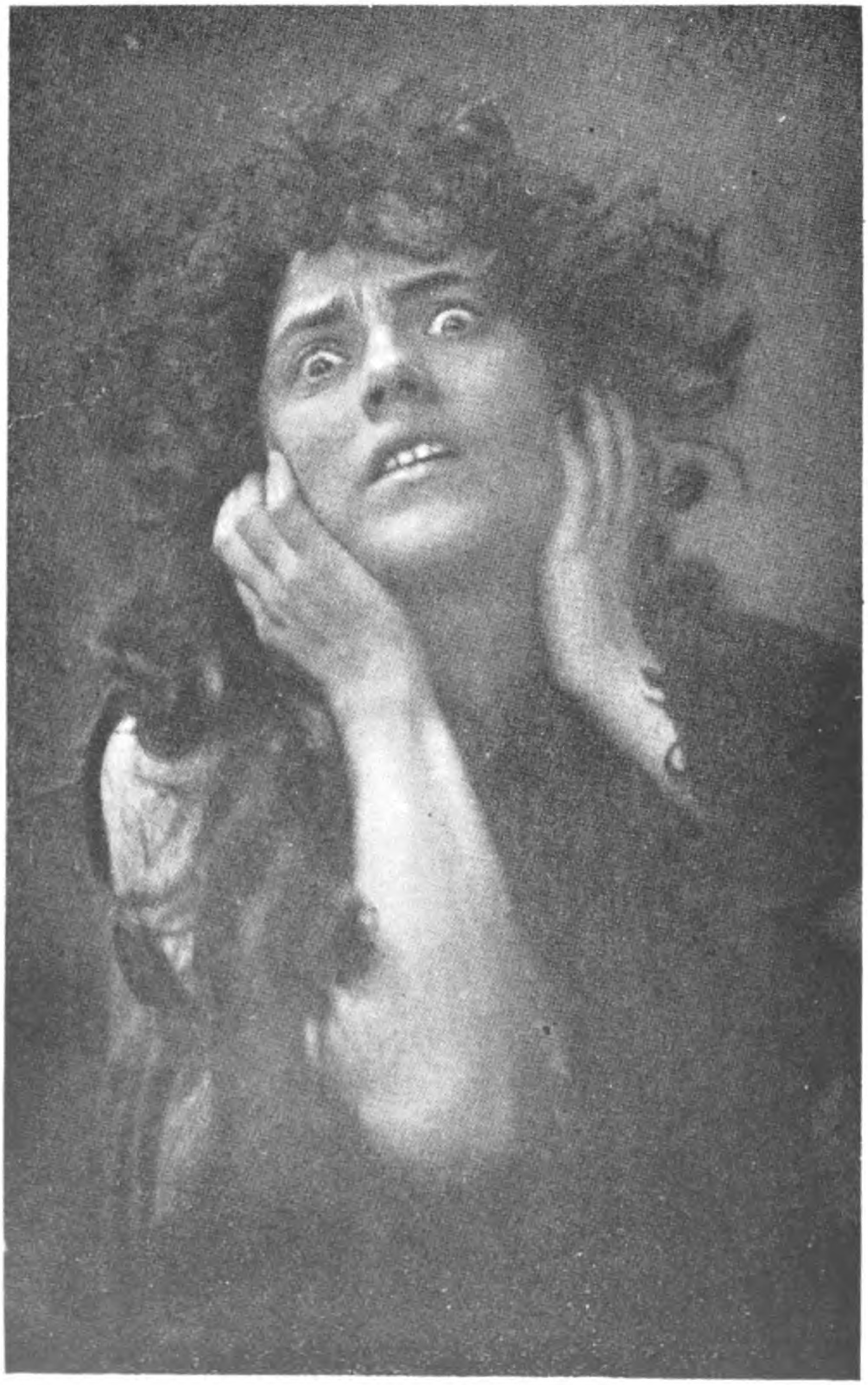
英國の名優リ・アー・マッカアシー孃（有名なるグランヴォール・バアカア氏夫人）ショーの喜劇は其最も得意さする所なり

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

露國舞踊(バレイ・ルス)の名手カルサヴィア孃とニジンスキイ(曲名「薔薇の精」)

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY



解禁歌劇「パアシフアル」のクンドリーとして有名なる
アリーヌ・サンデン孃（獨國ライプチッヒ市立劇場に上場）

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

今春伯林の一劇場に登場されたるタンゴ踊
男　トピアン　女　フランケ孃

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

露國莫斯科美術座にてゴルドン・クレーグが舞臺監督をなしたる沙翁作
「ガムレット」劇のオフエリヤ（オー・ウキー・グゾヴスカヤ孃）

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

今春伯林室内劇場（カンメルスピーレ）（ラインハルト主宰）に上場されたるストリンドベルヒ作「稲妻」（鷗外漁史譯あり）

左　主　人（パッセルマン）
右　ゲルダ（ゲルトルード・イソールト）

Digitized by Google

Original from
CORNELL UNIVERSITY

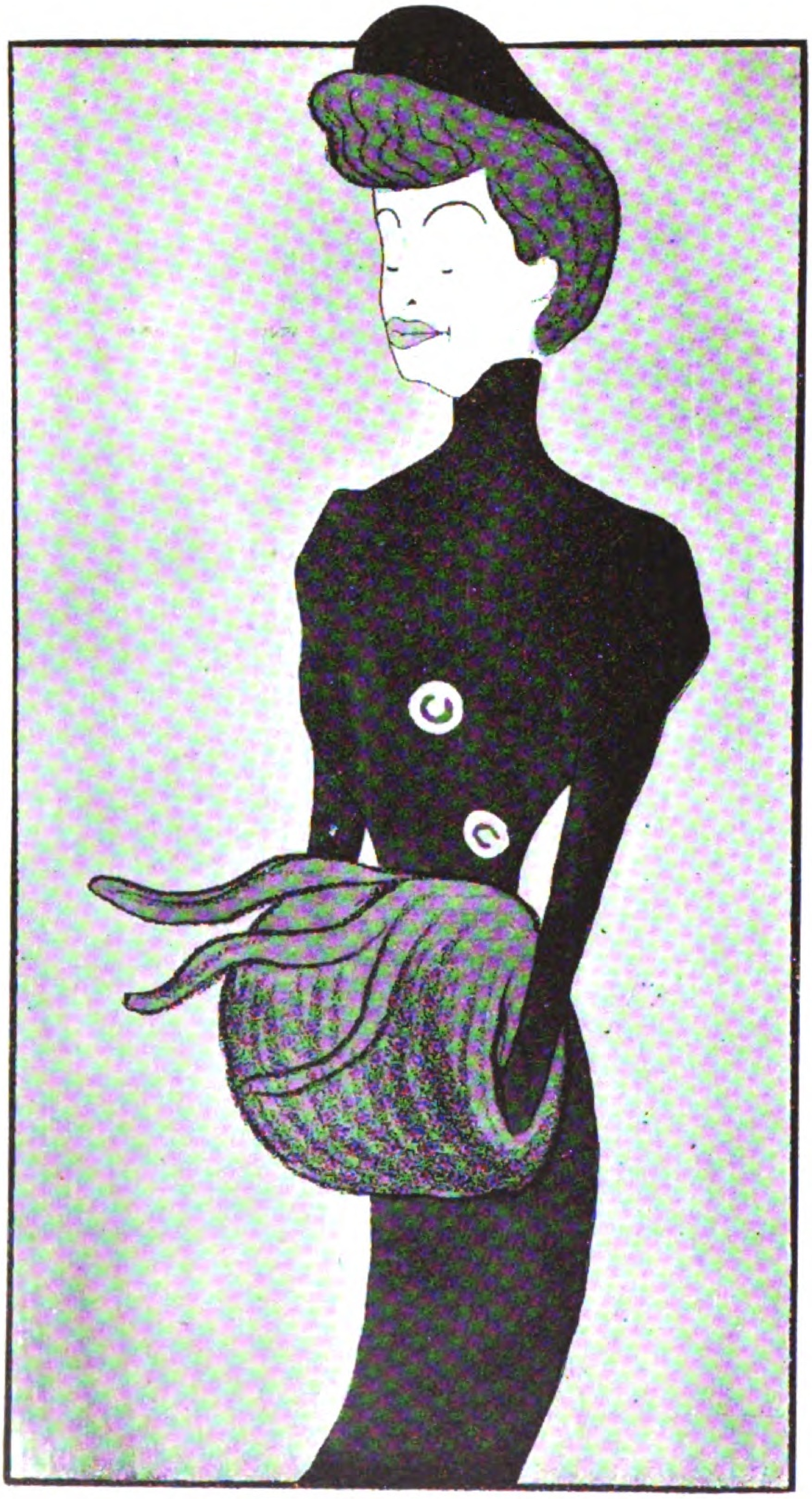
今春伯林王室劇場に上場されたるイブセンの詩劇『ピーア・ギント』

左　ゾルヴエーグ（ヘレン・テミーグ嬢）　右　アーゼ（ポーラ・コンラッド）

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

Digitized by Google

Original from
CORNELL UNIVERSITY



佛國寫實劇の泰斗にして好んでイプセン劇を演出する
レジヤーヌ座長レジヤーヌ夫人（ルムーニエール筆）

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

Digitized by Google

Original from
CORNELL UNIVERSITY

先頃佛國共和政府よりレジヤン・ド・ノール勳章を授與されたる佛國の女優サラ・ベルナール夫人のカリカチユーア（メデエ筆）

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

レッシング座で見た芝居

小山内薫

伯林には前後で三月程もゐたから、見た芝居の數は可なり多い。併し、私は「廣く見る」といふ事を目的にせずに、どこまでも自己の趣味に執着して、寧ろ「狹く見る」のを目的としたから、見た芝居の數は多くても、出這入りをした劇場の數は誠に少ない。私はどんな有名な舞臺監督のゐる劇場でも、どんなに格の高い劇場でも、出し物の氣に入らない所へは決して足を踏み入れなかつた。一番多く通つたのはレッシング座である。私はいつでも土間の三列目の眞ん中の席で見た。しまひ

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

にはカッセでも私の顏を覺えて了つて、私が切符を買ひに行くと、默つて三列目の廿九番を出して與れるやうになつた。

この座は「自由劇場」の創立者として、ハウプトマンの『日出前』の初演者として有名なオットオ・ブラアムが永年經營して來た劇場である。伯林に於ける自然俳優の草分(くさわけ)として有名なエマヌエル・ライヒヤアだの、オスカア・ザウアアだの、エルゼ・レエマンだのは、みんなこの座に屬してゐるのである。

オットオ・ブラアムは私が日本を出る二週間計り前に死んだのである。私はそれを知らずに日本を出た。ハウプトマンの五十歳の誕辰を祝ふと間もなく、この詩人を初めて舞臺の上に紹介したこの獨逸新興演劇の恩人が突然世を去つたといふ事を私が知つたのは、モスコオへ着いてから後であつた。

思ひなしか、私が通(かよ)つた時分のレッシングは、何となく物寂しかつた。一體、藝風から言つても、舞臺の設備から言つても、飽くまで生眞面目に、極めて地味な座である。人氣から言つても、つひ近所にあるラインハルトの獨逸座などには迚も及ばないのである。しかも獨逸座では初演物の『生ける屍』が無暗に當つてゐるのに、こゝで出す初演物はどれもこれも當らないで、一つも長く續くものはなか

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

つた。私は主人を失つた大家族の寂しさを、この座へ這入る度每に感じた。

併し、私は何となくこの座に引きつけられた、親しみを感じた。私か友達の家を訪問するやうな氣持で出這入りをした劇場は、伯林でこの座一つである。勿論、オットオ・ブラアムの遺業を慕ふ心もあつた。ハウプトマン物は殆どこの座の獨占であつた。イブセンもこの座で一番多く演せられた。

イブセン物では『社會の柱』と『青年團』と『ヘッダ・ガアブラア』と『海の夫人』とを見た。いづれもブラアムの衣鉢を襲いだエミイル、レッシングのレジイである。

『社會の柱』ではエルゼ・レエマンが初演以來の持ち役ロオナ・ヘッセルに扮して、この豁達自由な性格を豁達自由に表現した。ヨハン・テンネゼンに扮して、徹底した理解を見せたクルト・スチイラアはこの座の若手で最も技藝の優れた一人である。領事ブルニックには大男のハンス・マルが扮した。大詰の悔悟は土臺の惡い大きな家が俄に失足して倒れるやうであつた。少年オラアフには女優のマリア・マイエンが扮したが、鬘が惡くて、大人とも子供とも附かない氣味の惡いものが出來上つた。昔鳴らしたボオラ・エバアチイは序幕に大勢出る婦人の中の、郵便局長夫人といふのを勤めてゐた。

『青年團』では、オスカア・ザウアアが侍從ブラアッベルクに扮して、筋一つ動かさぬ生眞面目な顔の中に、諷刺と皮肉を溢れさせた。借地人のアンダアス・ルンデスタアトに扮したエマヌエル・ライヒ

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

ヤアは、如何にもよぼ〳〵と影が薄くて、これが昔自然派の驍將であつたのかと思ふと、涙が零れる程の衰へやうであつた。ハンス・マルは辯護士ステンスガルトに扮して、序幕では象のやうに大きくなり、大詰では鼠のやうに小さくなつた。この役でも彼の大男が役に立つたのである。

『ヘッダ・ガアブラア』の女主人公には有名なチルラ・デュリウが扮した。私はこの役者をこの役で初めて見たのである。デュリウのヘッダを、始から終まで貫くものは「倦怠」の氣分であつた。この點に於いて彼女は成功したが、外の點では豫期に背くものが多かつた。併し、原稿を燒く時の可愛らしい聲はいまだに私の耳に殘つてゐる。ふだんの聲よりわざと可愛らしい女らしい聲を出したのである。それが却つて凄い切ない感じを與へたのである。エマヌエル・ライヒヤアのエイラアト・レエフボルクは舞臺に於ける自然主義に一時期を劃したものだと言ふ事が記錄に殘つてゐる。併し、私の見たこの人のこの役は、如何にもよぼ〳〵してゐて、「昔」の影さへ見る事が出來なかつた。唇を無暗に赤く塗つたのも、お婆さんが化粧をしたやうで、餘計痛々しく見えた。判事ブラックはオスカア・ザウアアがやる筈で、辻びらにまでさう出てゐたのが、急に變つてパウル・バッシエンといふ一向巧(うま)くない人がやつた。ザウアアのこの役が見られなかつたのは誠に殘念であつた。ヨルゲン・テスマンは例のハンス・マルがやつて、大分「衆愚」を笑はした。エルフステッド夫人に扮したマルガレエテ・アルブレヒ

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

トといふ女優は、なりも小さく、態度も謹ましげで、私の好きな役者の一人である。

『海の夫人』の女主人公エリイダにはリイナ・ロッセンといふ、まだ余り有名ではないが、若くて巧い女優が扮した。白い着物に薄紫のエエルを肩にして、底の底まで緑色に光るフイヨルドの前へ出て來た姿は、イレエネ・トリイシユ程の魔力は無いにしても、十分私共の魂を引きつけた。ドクトル・ワンゲルには例のハンス・マルが扮した。アルンホルムにはいつも老人役をするオスカア、フックスが扮して、重味のある分別盛りの紳士を見せた。青年彫刻家のリングストランに扮したテオドオル・ロオスは、ハウプトマンの『ガブリエル・シルリングの逃走』の主人公に扮して成功した若い役者で、その病身らしい、神經質な、肩の細い身體が、如何にもこの役に適はしく見えた。クルト・スチイラアの見知らぬ人が好かつた事は無論である。バレステエドに扮した肥大なグスタアフ・リツケルトもこの座の老功な役者の一人である。この芝居は役者揃ひで面白かつた。唯二人娘のボレッテに扮したロツテ・クルジウスとヒルデに扮したマリア・マイエンとは、どうしても私の好く事の出來ない厭味な女優である。

この外イブセン物では『ジヨン・ガブリエル・ボルクマン』が演ぜられたのであるが、思ひがけない不幸で私はそれを見る事が出來なかつた。或週の水曜日にこれが出るといふ廣告を辻びらで讀ん

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

だ時、私の心は踊つた。この曲は私にとつて、最も縁の深い、最も思ひ出の多い戯曲である。私は何を置いてもこれを見なければならないと思つた。ところが丁度それと同じ日に、ツヤアロッテンブルクのウルフユルテン、オパアでイサドラ・ダンカンの踊りがある事になつた。私はこれも是非見なければならないと思つた。私はどうして好いか分からないで、一人で焦れてゐた。ところが二三日して、又レッシングの辻びらを見ると、Wochenspielplan がもう少し延びてゐて、その次の週の月曜に又『ジョン・ガブリエル・ボルクマン』が出るとしてある。私は大喜びに喜んで、何の顧慮もなく、ダンカンの踊りの水曜の切符と、レッシングの月曜の切符とを買つて了つた。

ところが、水曜の晩、『ジョン・ガブリエル・ボルクマン』が濟んでから、レッシッグ座の楽屋に小さい火事があつて、當日使つた大道具をすつかり燒いて了つた。そこで次週の月曜の出し物が急に變る事になつた。それを知つた朝、私は直ぐレッシングのカッセへ行つて、自分は『ジョン・ガブリエル・ボルクマン』が是非見たいのだが、こなひだ買つた切符をこの次同じ物の出る時の切符と取換へては呉れまいかと頼むと、プラグラムが變つたのだから切符の代は現金でお返しゝても好い。併し、道具をすつかり燒いて了つたのだから、今の所ではこの次いつ出るか分からないと言ふのである。私はすつかり失望して了つた。

火事のあつた晩の『ジョン・ガブリエル・ボルクマン』を見た日本人に平野萬里君があつた。平野君の話に依ると、エルゼ・レエマンのエルラ・レントハイムは莚若君のより惡かつたと言ふ事である。エマヌエル・ライヒヤアのボルクマンは左團次君のそれよりずつと弱つてゐたといふ事である クルト・スチイラアのエルハルトは私の豫想通り好かつたらしい。

私がこの座で見たハウプトマンの戲曲は『海狸の皮』と『沈鐘』と『ロオゼ・ベアント』と『織屋』と『寂しき人々』とであつた。いづれもエミイル・レッシングのレジイである。

『海狸の皮』は百九十回目の興行であつた。初演以來の持ち役として、エルゼ・レエマンの洗濯女のヲルフと、オスカア・ザウアアのフオン・エエアハアンが最も振るつた。後者は何處となく夏目先生を見るやうであつた。お婆さんのパウラ・エバアチイが小さい方の娘のアデルハイドに扮して、ひどく可愛く見えたのには驚いた。クルト、スチイラアのドクトル・フライシヤアも、この役者に打つてつけの役であつた。

『沈鐘』は三百八十七回目の興行であつた。これはもう大分役者が惡くなつてゐるので(若手の役者ばかりでやるのである)、一向面白くなかつた。殊にラウテンデラインに扮したロッテ・クルジウスが一番私には不滿足だつた。空想のない役者が空想的な役に扮する程、見じめなものはない。彼女はつ

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

ひに何者をも表現する事が出來なかつた。マチルデ・スッシンの鐘作りの妻マグダも、內容のない表面ばかりの藝であつた。唯テオドル・ロオスのハインリッヒだけは、規模は小さいながら、苦悶の印象を可なり深く私共に與へて吳れた。ニッケルマンには例のハンス・マルが扮した。その青く濡れた體の光と、熱く濡れた唇の光とはいまだに私の眼に殘つてゐる。

『ロオゼ・ベアント』では、やはり初演以來の持ち役で、エルゼ・レエマンがロオゼに扮した。これはロオゼがレエマンか、レエマンがロオゼかと云ふ程の折紙附である。病身のフランム夫人に扮したイルカ・グリユニングの藝も、地味ではあるが忘れ難い。クリストフ・フランムに扮したブルノオ・チイナア、ロオゼの父に扮したオスカア・フックスもこれらの役で、この座に無くてならぬ人々であるのが分かつた。殊に製本屋のアウグスト・カイルに扮した丁抹訛りのあるカアル・フォレストは私の最負役者である。この人の物柔かな自然な藝風は、莫斯科の美術座の役者の一人(ルウシュスキイ)を思ひ出させる。ハンス・マルは機械工のストレックマンに扮して、ヨルゲン・テスマンだのドクトル、ワンゲルだのとは丸で違つた方面の藝を見せた。

『織屋』は四百五十五回目の興行であつた。この芝居では、何と言つても大詰が一番面白かつた。オスカア・フックスの老ヒルゼと、クルト・スチイラアの息子ゴットリイブと、クリステル・ロレンツの

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

ゴットリイプの女房、この三人の意氣がぴつたり合つて一分の透きも無かつた。片腕で機を織つてゐた老ヒルゼが流丸に當つて、機の上へ俯伏せに倒れると、窓の外から孫のルイゼが『お爺ちやん、お爺ちやん。』と悲しい聲で呼ぶ最後の一瞬を私は長く忘れる事が出來ない。このルイゼには子役のグレエテ・リゾップが扮した。パウル、パウリの老バウマアトの哀れに見すぼらしい姿、ハンス・マルのベッカアの反抗的な態度、ブルノオ・チイナアのモリッツ・イエエガアの煽動的な興奮、それらも深い印象を私に與へた。

『寂しき人々』は餘り出ないといふ事である。それが計らず見られたので嬉しかつた。これも私にとつて思ひ出の深い曲である。ヨハンネスには私の好きなクルト、スチイラアが扮した。アンナ・マアルには海の夫人をやつたリイナ・ロッセンが扮した。畫家ブラウンには例の大男のハンス・マルが扮した。いづれも私の好きな人達である。ケエテに扮したヘレエネ・ブルガアは體中が涙に慘み通つてゐるやうであつた。イルカ・グリユニングのヨハンネスの母には、日本で私共が演出した同じ役に見られなかつた深い細かい「慈愛」があつた。

私はこの戯曲を原作でも、英譯でも、森先生の日本譯でも、何十回となく讀んだ。何十回となく稽古した。そして、たつた二日ではあつたが、非常な心配をして舞臺にまで掛けて見た。その私でも、レッ

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

シング座でこの芝居を見た時には、捕まへた言葉よりは逃がした言葉の方が多かつた。西洋人の芝居を「聞く」といふ事は、決して世間で言ふ程容易な事ではない「クルト・スチイラアやリイナ・ロッセンが、若し日本語で臺詞を言つて呉れたらどんなに好いだらう。」獨逸語で話されるこの芝居を見ながら私のしみぐ感じた事はこれである。そして、如何なる實際上の不便があらうと、日本には飜譯劇の上場を永く續ける必要があると思つた。若し他の人の總てに必要がなくても、私一人には必要があると思つた。

カアル、シエエンヘルの『信仰と故郷』も、私がレッシング座で見た芝居の一つである。これは日本の舞臺に移しても、一般の興味を引きさうな感傷的な芝居である。信敎の法を破つたロット一家が愈々村を追はれようとする時、好きな故郷を去るに忍びない孫の「雀」が石橋から川へ身を投じて死ぬと、その死骸を載せた箱を、ロットの若夫婦が前後から押して、新しい故郷を求めに寂しく村を出て行くのを見て、追放の嚴命を傳へた皇帝の騎士が劍を膝に當てゝ折る最後の幕切れなどは日本の古い戲曲にも見られさうな悲壯味である。ロットの若い主人にはクルト・スチイラアが扮した。老ロットにはオスカア・フックスが扮した。「雀」には女優マリア・マイエンか扮した。

新作でこの年レッシング座の舞臺に初めて登つたものには、ヘルマン・バアルの『主義』とハイン

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

リッヒ・マンの『博愛』とがあつた。私は二つとも見たが、二つとも余り面白くなかつた。世間の評判も余り好くなくて、後者の如きは僅か二三回出した切りで、あの立派な道具立と衣裳とを無駄にして了つた。『主義』ではエルゼ・レエマンの女コック・レエネ・クウクとブルノオ・チイナアの給仕人エワアブッシユが面白かつた。『博愛』では女主人公のリアアネ・レエエンに扮したチルラ・デユリウの美しい姿態が私の眼を引いた。『博愛』とは大勢の男に對する一人の女の博愛である。エマヌエル・ライヒヤアは『主義』にも『博愛』にも出てゐたが、いづれも樂な役を不精に演じてゐるやうに見えた。

古い作の新しい研究としては、ハアトレエベンの喜劇『結婚教育』が出た。それに添へてチロルの戯曲家ガンクホオフアアの『死と生』といふ一幕物が初めて上場された。これは二つとも大變面白かつた。『結婚教育』ではエリッヒ・ワルタアの法科大學生ヘルマンとクルト・スチイラアの文科大學生モリッツ・ランゲとの生活の對照、戀の對照に皮肉な面白味があつた。リイナ・ロッセンのメタ・ヒユブケには「獨逸のモオパッサン」と呼ばれた作者の、現代の女に對する皮肉な見方が遺憾なく表現された。息子に異見をさせる積りで、ヘルマンの母が田舍から呼んだ伯父が、ヘルマンのデカダン趣味に贊成して、自分の昔話に幻を拔かして了ふあたりにも作者の辛辣な皮肉が見られる。Elfeをエエへといふ風に訛つて話すこの田舍の伯父さんにはカアル・フオレントが扮して卓越した技藝を見せた。

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

ガンクフオオフアアの『死と生』はチロルの田園喜劇である。父を失なつて寺へ行つた歸りの一家族と子が生れて寺へ行つた歸りの一家族とが、計らず一軒の酒屋へ落ち合つて生ずる憂愁と歡喜の可笑しな Vermischung を書いたものである。喪服を着けた家族と祝ひの衣帽を着飾つた家族とが、初めは爭つてゐるが、父を失なつて悲しんでゐた豪農の息子が酒屋の給仕女を追ひかけて出て行くのがこの曲の終りである。幕切れには誰も舞臺にゐない。「死」の家族も「生」の家族も、みんな外へ踊りに出て了つたのである 喧嘩の騷ぎの時、危ないので高い暖爐のてつぺんに置かれた赤ん坊が、唯一人取り殘されて、『おぎやあ、おぎやあ。』と泣き出す所で幕が降りるのである。クルト・スチイラアの父を失なつた若い百姓とカアル・フオレストの子を儲けた怠け者とが、中でも最も活躍した。

　私がもう伯林を立たなければならなくなつた時に、レツシング座ではやがてイブセンとハウプトマンの循環興行をやるといふ廣告を出した。イブセンが六曲にハウプトマンが六曲である。前者には私のまだ見ないものに『幽靈』と『ジヨン・ガブリエル・ボルクマン』があつた。後者には『平和祭』と『ガブリエル・シルリンクの逃走』と『鼠』とがあつた。私は平野君や生田葵山君がその切符を買ひに行くのを、羨ましさうに後へ殘して伯林を立つて了つたのである。(一九一三、一月――三月)

(ブラアムの遺したレツシング座は私の見たセエゾンで解散された。クルト・スチイラアはハムブルグへ呼ばれて行くといふ噂であ

つた。エルゼ・レエマンその他の老人連はハウプトマンを舞臺監督に押し立てゝ、シヤアロツテンブルクの元のクルフユルステン・オパアに藝術座なるものを形[illegible]つた。明き家になつたレツシング座は今までクライネス・テアタアにゐたバルノウスキイが經營する事になつて、有名なフリイトリツヒ・カイスラアが座頭として這入つた。第一回の興行はイブセンの「ペエア・ギユント」であつた。私は計らずブラアムのレツシング座の最後の一冬（ひとふゆ）を見たのである。）

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

女優片々草

松居駿河町人

口五月の末に、大西洋の波に其身を委せた英國の優人ローレンス・アーヴキング夫妻の最期は、其詳報が分つて來るにしたがつて、いよ〳〵傷しい感が強くなる。死が二人の前に、其恐ろしい姿を赤裸々に示した時、夫妻が相抱いて脣をふれ會つた其心地は如何であつたらう。死しての後の夫の手に、尚妻の着衣(きもの)の一片が殘つて居たといふにも、二人の心の執着が讀まれるでは無いか。而して此夫妻の愛情の眞に深く且つ堅かつた事を知つて居る私には、一層同情に堪へないものがある。アーヴキ

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

ングは千九百七年の秋に、自分の作つたドストエフスキーの『罪と罰』の脚本をもつて米國へ行つた事がある。彼はシカゴで此脚本を米國の名優サヷアンに演じさせる準備を畢つて、英國に皈る其途中で、大西洋上から私にあてゝ長い〳〵手紙を送つてくれました。其大部分は本月の『ニコ〳〵』雜誌へ出して置いたが、其一節に如斯(かう)いふことが書いてあつた。

「私は再び妻の許に歸る事を熱望して居る。兩人が結婚してから此かた五年の間、三日より長く分れて居た事は無かつた。だから今度の旅は永別の樣な氣がしたのだ……」

處こそ違へ、同じ大西洋の一角で、彼等はとう〳〵永別をしてしまつた。彼の此手紙は、私に取つて遺書の樣な氣がしてならぬ。

□此手紙を出して見た時に、私は同じ年の春巴里で受取つたメリー・バアトン孃の手紙をも見つけ出して、暫らく讀み耽つて居た。メリー・バアトンといふのは、英國の女優だ。が、この女の名を知つてる日本人は幾人もあるまい。外國人に知られる程、まだ大して偉くはなつて居ないのだ。それでも私には他の意味から懷しい名なのだ。此女は私が倫敦の劇術學校へ通つて居る頃、もう卒業期間の生徒であつたが、お出額(でこ)な色の黑い栗色の髮の烈しく縮れて居る、まあ醜い方の女であつたが、聲が表情に富んで心の力を強く現はす事が巧みなので、教師にも未來をかけられ、生徒間にも尊敬されて居

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

た卒業間近くなつて、彼の名優サア・ジョーヂ・アレキサンダアが、『アルト・ハイデルベルヒ』を敎へる事となつた時、此女はケチイの役を取つて、しかも婦人部の舞臺世話役をいひつけられた。稽古は午前中サア・アレキサンダアがレッシイだつたセント・ジエームス座の舞臺でやる事になつて、最初の日には上級の生徒全員に參觀を許し、サア・スクエーア・バンクロト夫妻も來たし、エレン・テリー孃も馬車でやつて來た。テリー孃は暗い土間の椅子の間を、片手眼鏡を便りにして入つて來たが、私とサア・アレキサンダアとの間にあつた空椅子の一つに腰をおろした。而してフォーサイといふ若い男のプリンツとの悲しい別れの一場を、驚くべき力を以て演出して居る此女の藝に對して、少なからぬ興味をもつて見物して居た。而して折々兩人が相抱いて接吻(キッス)をすると私の耳に口を寄せて、「演劇(しばゐ)といふものは、若い者には見せるものでも、演(や)らせるものでもないね」と云つて見たり「あれは日本人には分るまい、日本には Kiss と Curse とが無いといふから」などゝも云つた。が、最後にケチイが別離の悲哀に堪へかねて、卒倒するあたりでは、テリー孃は拍手して其技倆を賞讃した。而して、「最初の稽古の第一日に、之だけの技倆をもつて居るとすると、其將來は實に恐ろしい」と、私に囁いて居た。稽古が濟んでみんな劇場の外へ出ると、一度馬車をペルメルの方へすゝめたテリー孃は、忽ち馬頭をひるがへさせて、またジエームス座の前へ歸つて來た。而して私の姿を見ると「おゝミスタア松居、おま

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

へは今の獨逸の少女になつた生徒に逢ふ機會がありますか」といふ。「けふ、午後に又授業がありますから、學校で逢ふ筈です」といふと、「そんなら、明日の晩私しの家へ來る樣に云つて下さい」。

口私はバアトン孃の幸多き未來を此一語で讀んでしまつた樣に思つた。午後に教場でバアトン孃に其言傳をした時、此女は私の手を取つて泣いた。「あんな偉い女優の前で、拙ない稽古をしたといふ事さへ大膽な事であつたのに、あのえらい人が妾を何とか云つて呉れるといふのは、此上ない名譽だ。妾は何といふ僥倖な星の下に居るのだらう」。併し人間の運命ほど分らないものは無い。私が間も無く英國海峽を渡つて巴里へ行つた時 此女から來た手紙には、「私は自分を愛してくれるテリー孃の一座へ入らずに、グランヴヰール・バアカア氏の一座に入る事となつた、人の運命ほど妙なものはない」と有つた。ところが翌年の三月になると、倫敦からの新聞には、コート座の晝間興行に出して居るショウの作『色事師』のジユリアを演つて居たリ・アー・マツカアシー孃が俄かに病氣になつたので、たつた一晩の稽古でバアトン孃に代役をさせた。するとそれが非常の出來榮で、マツカアシー孃にも劣らぬ好成績、英國劇壇はたつた一夜にして一花の明星を得たと迄賞讃した。私は巴里の大使館の一室で、これらの新聞を見て、自分の事ほどに嬉しくなつて、早速喜びの手紙を出した。それに對してバアトン孃が寄した手紙が、即ち今私が久し振で、手に取り上げた それであるのだ。その一節にこんな事

が書いてある。

「こんなに早く妾が機會を得たといふのは、何といふ僥倖であつたでせう。全く思ひもかけなかつたものですから、妾がどんなに神經的（ナアヴアス）になつたかといふことは、察して下さることが出來ませう。バンクロフト先生夫妻（學校の幹事）も初日に來て下さいました。學校の友達も大勢來てくれました。それが私にはどんなに嬉しかつたでせう。妾は少くも一年間コート座に居る事になりませう。だからあなたが又倫敦へお歸りの時には、何か役らしい事をして、見に來ていたゞきたいと思ひます。コート座へ出勤して居る爲めに、此期間は學校へ通學する事を妨げられて居ります。妾はそれが殘念でなりません。でも人間は一人であらゆる事が出來るものでは有りませんからねえ……」

口私が此女に對して、今以て一種の懐（なつか）しみを忘れる事の出來ないのは、此謙遜な態度の手紙のためである。私は日本へ歸つて後、多くの素人の俳優諸君の爲めに、いくらかの脚本の演出（プロダクシヨン）につとめた。だから其人々の技倆も大抵分つて居るつもりだ。併し其人々が二三度舞臺へ上ると、もうえらい藝術家になつてしまつて、自分の役といふものが、全く他人から敎へられ、吹き込まれたものであつても、その評判が好いとなつた日には、だれがそれを僥倖などゝ考へやう。忽ち大家になつてしまつて、又學校で學ばうなどゝいふ考へなどは微塵も起しはしない。それから思ふと、此バアトン孃の心がけは、

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

あゝ何といふやさしい、嬉しいものであらう。然し、然し、此女優は其後七年の今日如何して居るであらう。フローマンの小劇場が倫敦に出來た初めには、リーナ・アッシユウエル嬢の二枚目處あたりで可成な役もついた樣であつたが、まだ倫敦で知名な女優とはなり得ない。『演劇人名字書』などに載る程の資格も出來て居ない。誰にも手を取つて貰はぬ中から、私の見たところでは松井須磨子さんのケチイよりもずつと〳〵立派なものをクリエートして居た此女優、歐洲全土の新聞に其名をたゝへられ英國劇壇の名花とさへ賞讃される機會を、上場後わづかに數ケ月にして摑み得ながら、卒業後尚學校で研究する餘裕のないことを憾むほどの謙遜な心をもつて居た此女優、それが滿七年かゝつて、まだ〳〵私が期待して居るどころか、水平線までの位置にさへ達し得ない。英國の劇壇は大陸のそれに比して、餘程悲觀すべきものだと云はれて居るが、それでも日本の此頃のやうに誰にでも賞讃の辭を浴せかける樣な事はしない。無暗と天才を以て許す樣な事はしない。ショウは十年の間『色事師』を米國で興行する事を許さなかつた。米國の女優が例の鼻から出る發音をするのを恐れたからである。ところが一日マリー・ロートン嬢と會談した時、「あゝ永い間の問題が解決した。私はジユリアを發見した。さあ、明日の十時にバアカア君の許へ行つて左樣云つて下さい。此女の聲を聽き給へ、此女には亞米利加の大きな耳障りが除き去られて居ると」。ところが日本の新興劇團では發音などゝいふ事は全

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

く算盤玉にはかゝらない。語なんぞは何處でもかまはないのだから、出來星の明星がいくつも〳〵輝くのも無理もない事だ。

口日本の半可通は、自分に碌な金も無い癖に、西洋の女優は皆淫賣婦(ぢごく)だとか、自墮落だとかいふが、私の知つて居る澤山の泰西の女優の範圍では、バアトン孃の樣に、やさしい、謙遜な人が中々多い。あの勝氣な、若い時には決して人に讓らなかつたといふサラ・ベルナル夫人でも、私があの人の私宅なり、樂屋なりで受けた印象からいふと、やさしい、謙遜な婦人である。あの人は初日の晩といふと、舞臺へ出やうとする刹那に、乾度尻込みをする。今以て初日の見物が怖くてしやうが無いのだとは、巴里人(パリジヤン)の誰でも知つて居る事である。島村抱月先生が倫敦で、其人のカチユウシヤを見て感歎されたリーナ・アッシユウエル孃の如きは、私の能く逢つた頃は、もう三十五六で、初舞臺(デヴユー)からでも、既に十五六年になつて居るのに、初日の晩といふと素心(しらふ)ではとても舞臺へ出られない。樂屋で酒を一二杯呑んでから面燈り(フートライト)を見る習慣にして居ると云つて居た。泰西の俳優の間には、男女に拘らず、初日の神經(ナアヴアスネス、オブ、フオルストナイト)といふ事が普通になつて居る。

口近着の米國演劇雜誌にキヤセリン・グレー孃の事が載つて居た。此人は今年四十四の老巧者で、米國女優としては可成高い地位に居る人である。初めて舞臺へ上つてからでもこゝに十五年、米國の近

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

頃の名優はマンスフィールド初め、大抵相手にして居る。ところが此女優を訪問した記者は、如斯いふ事を云つて居る。

「二百の當り役をもつて居る婦人なのだから、誰でも二百一番目の成功は覺束ないと思ふだらう（記者に對して大きな面(つら)でもした事と思ふだらう）。が、私が握手をして、フラワア夫人の役が如何に結構だらうかといふ事をいふと、婦人はまるで初めて御世辭を聞いたやうに、心(しん)から大喜びで、あの黒い髮の根本まで眞赤になる程、顏を赧(あか)めた」。

何といふ心のやさしさであらう。何といふ謙遜な態度であらう。私は日本にも如斯いふ女優が欲しい。

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

人形芝居について

小澤愛圀

實は何か纒つたものでも紹介したいのであるが、餘裕もないし、それにこの頃殆ど氣力がすぐれぬので、それが出來ぬのは甚だ遺憾である。此處には人形芝居について、思ひついたままを、たゞ斷片的に書き列べるに過ぎない。中にはこれまで發表したものなどから拔いたものもある。

人形芝居が單に演劇そのもののみではなく、舞臺裝飾の上から見ても音樂の上から見ても、極め

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

て興味あるものであることは、此處に言ふまでもないが、これをまた舊き傳說的時代の尊き遺物として、愛惜賞翫することも極めて趣味あることであると思ふ。

日本の詩人藝術家たちのうちに、人形芝居に對して熾烈な趣味を有つてるものを殆ど見受けないが、西洋には、これに對して力ある味方がわれわれの尊敬する藝術家に少くない。而して、また人形そのものの歷史を研究してゐる奇特な學者もある。私がいま飜譯して居る "Storia dei Burattini"（傀儡史）の著者故ヨオリック氏の如きは、嘗て『伊太利のゴオチエ』とうたはれ、長年の間、Florentine Nazione 誌の劇評家として盛名のあつた人である。また、佛蘭西のシャアル・マニヤン氏の如きも、人形の歷史に就ては世界有數の學者である。而して、さきのヨオリック氏もその『傀儡史』を編むにあたつてマニヤン氏の著書に負ふ所が多いと自ら言つて居るし、アナトオル・フランス氏などもマニヤン氏には敬服して居る一人である。ゴルドン・クレエグ、アアサア・シモンズ氏等も人形に對して深い趣味を有つて居る。大陸では、メエテルリンク、ホフマンスタアル、シユニツラアなどの劇作家が好んで人形芝居をやつてることは何人も知つて居る。

アナトオル・フランス氏の思想や哲學を知るに極めて便利なものは、氏の著 "LA VIE ZITTER-AIRE" であるが、そのなかの SIGNORET 氏の人形とセエクスピアの『嵐（ゼ・テンペスト）』との二項で、氏は人

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

形芝居に關する意見を公にして居る。"LES MARIONNETTES DE M. SIGNORET" のなかに次のやうな一節がある。

En attendant, j'ai vu deux fois les marionnettes de la rue Vivienne et j'y ai pris un grand plaisir. Je leur sais un gré in fini de remplacer les acteurs vivants. S'il faut dire toute ma pensée, les acteurs ma gâtent la comédie. J'entends les bons acteurs. Je m' accommoderais encore des autres! mais ce sont les artistes excellents, comme il s'en trouve à la Comédie-Française, que décidément je ne puis souffrir Zeur talent est trop grand : il couvre tout. Il n'y a qu' eux. Zeur personne effeace l'oeuvre qu' ils représentent Ils sont considérables. Je voudrais qu' un rêve de chefs-d'-oeuvre joués à la diable dans des granges par des comédiens nomades.

嘗て私は、##アンヌ街の人形を二度ほど見物した。そして、それに於て、大なる愉快を覺えることが出來た。生きた俳優に代つて彼等が演ずるのは、無性に嬉しいことである。忌憚なく言へば、俳優は却つて戯曲を傷けるものである。それはいい俳優の意味で、他のものならば寧ろ堪へもする。しかし、Comédie Française に見るが如き名優に至つては、到底私の忍び能はざるものである。彼等の技能は餘りに偉大であつて、すべてを包含してゐる。彼等の外には何物もない。彼等の個性は彼等が表現する動作を滅却してしまふのである。彼等は卓越して居る。私は、天才のない卓越した俳優を欲しいと思はない。(大意)

"LA TEMPÊTE" のなかにも、亦こんなことがある。

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

Et je suis très flatté de voir que M. Paul Margueritte, qui a le goût fin, l'amour du rare, le sens du précieux, est aussi fort partisan des acteurs artificiels et minuscules. Il a fait, à propos du Petit-Théâtre, un éloge ingénieux des marionnettes.

"Elles sont, a-t-il dit, infatigables, toujours prêtes. Et tandis que le nom et le visage trop connus d'un comédien de chair et d'os imposent au public une obsession qui rend impossible ou très difficile l'illusion, les fantoches impersonnels, êtres de bois et de carton, possèdent une vie falote et mystérieuse. Leur allure de vérité surprend, inquiète. Dans leurs gestes essentiels tient l' expression complète des sentiments humains. On en eut la preuve aux représentations d' Aristophane, De vrais acteurs n'eussent point produit cet effet. Là le raccourci ajoutait à l'illusion. Ces masques de comédie antique; ces mouvements simples et rares, ces poses de statue donnaient au spectacle une grâce singulière."

美しい趣味、珍奇なものに對する愛好の心、貴重なものに對する感覺——を有つてる彼のポオル・マルゲリイト氏が、また、人の造つた小さな俳優の力ある味方であるを見て、私は甚だ嬉しく思ふのである。氏は、Petit-Théâtre の人形に對して巧い讃辭を呈して居る。

「彼等は疲れることを知らず、常に敏活である。生きた俳優の名やよく知られた面は、幻想を不可能ならしめるか、さもなくば極めて困難ならしむる所の障害を見物に蒙らすものである。併し、木や紙で造つた個性のない人形は、おどけた面も神秘的な生命を有つて居る。彼等の動作は眞に見物をして驚異せしめ、不安に出しめる。彼等の本然の動作のうちには、人間の感情の完全な表現が含まれて居るのだ。その證據はアリストフネスの演戯に於てよく與へられて居る。眞實の俳優はその効果を收めることが出來ない。其處で短縮が幻想に附け加へられるのだ。古い喜劇の假裝、ある單純なそして遲々たる動作、あの塑像のやうな姿勢は、場面に一種の不思議な雅趣を添へるのである。」（大意）

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

そして、アナトオル・フランス氏は、私には斯のやうによく言ひ表すことが出來ないと言つて、ボオル・マルグリイト氏のこの言葉にいたく感服して居る。

西洋の人形芝居の起原のことは、アナトオル・フランス氏の論文のうちにもあるし、尚ほ詳しく知りたいと思へば、ヨオリック氏の『傀儡史』を讀むに限る、希臘、羅馬時代に於て、人形芝居が既に發達して居たことは、これまで度々述べて置いた。往時のイギリスの人形芝居に就てはキリアム・ホオンといふ人が書いて居る。

日本の人形芝居の歴史に就て、私はいま起草中であるが、近く何かの雜誌で發表したいと思つて居る。往時、歌をうたつて人形を舞はすものを傀儡子(くぐつまはし)といつた。傀儡は初め遊女の弄ぶ所であつたが、後には男子の專業となつた。傀儡子のことが史乘に見えて居るのは、西暦九五〇年代即ち村上天皇の御代である。室町時代の末葉に興つた淨瑠璃が操りについたのは、恐らく、一五九〇年代から一六〇〇年代にわたる文祿、慶長の頃であらうと思ふ。茲に於て始めて操り芝居なるものが興つたのである。江戸時代に於ては、この人形淨瑠璃の外に說經節の操り芝居があつた。これは、京都では日暮八太夫、說經與八郎、江戸では結城孫三郎、天滿八太夫、江戸孫四郎などがやつたのであ

る。其他尚ほ江戸時代には、萬治の頃(一六五八――一六六〇)竹田出雲掾が興した機捩(からくり)がある。南京操りは所謂手妻人形ともいひ、延寶の頃(一六七三――一六八〇)京都の山本土佐掾は山本飛驒掾にこの人形を遣はせて語つた。南京操りとは、木偶に多くの糸をつけ上から釣つて遣ふのであつて今でも結城孫三郎、山本三之助などがやつて居る。人形紛ひの見世物にまた覗きからくり、影繪などがあつた。キリアム・ホオンも、十九世紀の初葉、イギリスに "Gallantee show" (透視畫)といふもののあつたことを述べて居るが、"Gallantee show" とは、恐らく覗きからくりと影繪とを折衷したやうなものではあるまいか。

獨逸のミユンヘンは人形芝居が極めて盛んだといふことである。そして、ミユンヘンの人形芝居は時々伯林に行つて興行するやうである。佛蘭西には、シヤンゼリゼエとチウイレリイ公園に政府で建てた人形芝居小屋があるとのことであるが、その模様や出し物の內容に就ては實際見て來た人に聞きたいと思つて居る。

イギリスでは先年リヴアプウルのサン・ドンステユデイオ倶樂部員が人形芝居のフアウスト劇を演じた。この倶樂部員は何れも學識經驗のある藝術家たちで、人形芝居に限らず、時々、種々の藝

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

術上の試みをなしてリヴアプウル市民に刺戟を與へるのである。そして、このソサイテイでは、後期印象(ポスト・アンプレツショニスト)派の展覽會なども開くといふことである。

イギリスに、クラン・リユキスと呼ぶ極めて古風な人形遣ひの老人がある。今は、古びた人形を携へて旅から旅とさまよひ、落魄流離の生活を送つて居る。この人が先年倫敦に來た時バアナアド・シヨウ氏はイングランドの傳説の一つを保存するに努めるこの尊き藝術家に深く同情して世に推賞したので、當時の倫敦の諸新聞は、盛にリユキス氏のことを書きたてたといふことである。ジヨン・ブル氏はこの氣の毒な老人に同情して、イギリスの政府は、宜しく佛蘭西の政府がなしたやうに、ハイド・パアクに人形芝居小屋を建てて、リユキス氏を擁護してやらねばならぬと言つて居る。

人形芝居に就ては、まだまだ述べたいことが澤山あるが、何れ機を見て紹介したいと思つて居る。尚ほ、これに多少でも興味を有たれる方は、これまで私が書いたものを讀んでいたゞきたい。

(一九一四年六月十八日)

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

オッフエンバフワ

原信子

今秋愈帝劇でオッフエンバフワのオルフオイスを演奏することになつて居りますが、此作者は餘り日本には知られて居らないから、此を機會に少し此處にオッフエンバフワに就て書いて見たいと思ひます。

オッフエンバフワ（Offenbach）は元とレヴイ、ジヤアク（Levy Jacque）と呼んでオッフエンバフワと申す河岸に千八百十九年六月二十一日に生れ父は獨逸コルンの猶太人の寺院の唱歌の指導者

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

でした。オッフエンバフワは青年の時に佛國巴里に參りまして千八百三十三年十一月にヴワスリン(Prof vaslin)敎授のヴワイオロンセローのクラスに加はつたのですが一年の後別に頭角を顯はさず又特に音樂研究の趣味も發起せずして去りました、彼は其からオペラコミック歌劇場のオーゲストラに加はつてセリグマン(Seligmann)と並んで演奏して居りましたから乾度彼から此時音樂の知識を得たものでせうと存じます、彼は斯時代に多くのヴワイオロンセローの音樂を作りましたが其作者として世に多少知られたのはラ・フオンタン(La Fantaine)の狂詩に或小歌を作つた事です、後に彼は Theatre Francaie のオーケストラのコンダクトルに撰ばれて而して「シヤンンド・フオーチユオ(Chanson de Fortunia)を創作致しました、丁度千八百四十八年でして之は慥かに彼のメロデー中最良の一曲です。

此時分からオッフエンバフワは總べての機會を利用して自分と云ふ者を社會に現はさうと致しまして屢公衆の好奇心に訴へる所の種類の音樂會を催しました、彼は實に「一粒の頓智はブッシエル(二斗五升)の智識に優るとの俚言」を遺憾なく實行したものです。

オッフエンバフワの處女作はペピトウ(“Pepito”一幕場)でして千八百五十三年の作です、同年十月二十八日に巴里のヴワリエテ(Variete)劇場で演奏しました、餘り評判はされませんでした、

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

併し彼は續々と小劇場の凡俗の觀客に適する樣な小物（Operettas）を作りました、で終に彼はレス・デュー・アヴーグル（Les deux Avengles 二人の盲）"Le Violoneny"及び其他の輕るい物を著はしたが彼は此等をシャンゼリゼ（Chanps Slysées）の小劇場で上場し終に此劇場の支配人になつたのは實に千八百五十五年の七月でありました、同年十二月にテエトル・コムト（Theatre Conte）を支配することゝなつて彼は之をブーフエ・パリシエン（Bauffes Parisiene）と名けて此處で多くの小オペラを上場して彼の名聲は非常に持て榮やさるゝようになつて參りまして到頭オペラコミックの門戸を開いて彼を迎へる樣になつたのです、彼の默劇「ル・パピョン」(Le Papillon)は餘程の成功を彼に與へたとのことです。

斯の如く此頗る巧者な而かも豐富なる音樂の滑稽家はカフエーの音樂會が奬勵されてチユレリーのコンサヴエトル（Conservatore）の音樂會が流行外れとなつた此時殆んど第一流の歌劇作者として待遇されんとしたと申すことです、千八百六十一年に自分の都合で支配人の地位を止めて種々他の劇場に其新作物を上場しましたが又再び千八百七十三年にテエトル・ド・ラ・ゲイテ(Theatre de la Gaiété）の支配人となり千八百七十五年に米國に行く迄此地位を維持して居りました、米國では別に成功を得なんだのです。

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

オッフエンバフワは働き手でした、二十五年間に九十種からのオペラを創作致した、斯る精力は別に斬新の創意がないにしても思想の豊富なことを語るものです。

オッフエンバフワのメロデーは往々凡俗に陷つてキチンと締つた所を缺いで居るとの評がありま す、彼は善き語句を何遍と繰り返したり、規則を破ることも何か彼の目的を達することが出來れば此等を使用し又實行することも躊躇しなかつた、然れども此等の缺點は彼の急忙、快恬、其結果の放縱なる、壓痛快なる言を發するのと自然的强い反語の脈を引いて居るのとで相殺して相當なる好評を常に維持したのです。

由來藝術はスタイル若しくはパッションを持つて居なければ生命はないと思ひます、單に風俗のスケプチズムで以て趣味と禮儀とを犧牲に供して一時の痛快を博さんとするバフーナリーでは永き生命を保つことは出來ないので、スタイルと、パッション！ 油と火！ 形式と精神、思想と情慾、考へと感情とがない者は藝術家としても作者としても資格がありませぬ又生命がありませぬ、往年或る有名な文學者が小說を書いて世に公にされた時世間では傑作として大好評を呈しましたが、只一人の老文學者が斯う云ふ評を下しました、此作は實に立派であるが又何も不足な所はない近頃の佳作だが只一つ缺けて居る者がある、其は此作には火氣がない。バッションがないと申されたと

の事を聞きましたが、此後此く批評された文學藝術家の心得ふべきことです。オフエンバフワの作が尙ほ今日勢力があるのは世間で云ふ如く單に滑稽的輕るい所のものばかりでない或る者があるからではないか何うかは疑問ですが其或物は輕妙な眞に面白いと云ふ所があります。

彼は英國へも四度程行つて其三度迄は公演に顯はれて其藝術を發揮致しました、一時は歐洲に於て最も判評高き作者として觀迎されました。一體笑ふ、可笑い、笑顏、皆な人生の愉快と滿足を表情する者です、喜劇が益今の世に觀迎さるゝのは世の中が段々激烈になり競爭が日に增し强くなつて日々人生の悲劇が行はれて更に慰安の境遇が得られなくなるからかも知れませぬ、笑ふ門には福來る！ 笑ふのは藥りだと私達は子供の時から敎へられて居ります、オッフエンバフワの作も亦我が人生の一面を歌ふ音樂です、アリストフッネスやプロータス及ターレンスは其時代々々に希臘人や羅馬人を笑はせました、今日之を讀みましても其は可笑しいのですが讀んで見ますと昨日の事を語つて居るやうです、喜劇殊に喜歌劇は今日の如き多忙なる社會には必要です。

オッフエンバフワは千八百八十年十月五日に巴里のブルウワー・デ・カプシネの自宅で痛風の爲めに死去致しました、彼の遺稿の作中にはラ・ベーユ・ルレット（La belle Leirette）レ・コンテ・ドフマン（Les Contesd Hoffmann）が最も有名です、前者は死ぬ前の最近作で改作されレネサンス（゛R

enaiesance")で上場されたのは實に千八百八十年十月三十日でした、英國では千八百八十三年三月廿四日にアヴエニユー劇場で演せられました、後者は彼の最も精力を而かも多年の間加へて作つたものださうです、彼は死の近いてることを知つたと見へて度々カヴワローに申しました、「急げ々々僕の作を上場することを急げ、僕は非常に急いでる僕の唯一の希望は此作の(Premier)を目擊すると云ふことだ」と此作は終に改良されてギラー(Guirand)がオーケストラを附しオペラ・コミックで一八八一年二月十日に上場されまして當代の名藝術家が演奏しました、其重なる歌劇はアデル・アイザーク。マガレット・ウガルド。タスキン。グリオーなどでした、獨逸では仲々好評で演じられ又ヴインでは之をリングテエトル(Ring Theatre)で演じてたのです。

　ロンドンでは千八百六七十年代に盛にオッフエンバフワの音樂が流行しましたが其後は殆んど忘れられて居ました、伯林では今も仲々歡迎されます(La Graide daehe)は前世紀末に二度斗りロンドンのサヴワーイ劇場で歌はれました、本年の春は米國のアスターテルでオルフイス・イン・アンフワー(Orphés aux Enfers)が演奏されました、米國では色々オッフエンバフワが聞かれるとのことです、此オルフオイスは始めて千八百五十八年の十月廿一日に巴里のブーフエ・パリシエルで上場せられロンドンでは千八百六十九年七月十六日にセントゼームス劇場で演せられました。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

尙ほオッフェンバフワの音樂中には仲々輕妙な面白いのが澤山あります、其條書は次に紹介致します。

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

忘れて來たシルクハット (Lord Dunsany)

森 林太郎譯

人物

紳士

職工

青年

巡査

Digitized by Google

Original from CORNELL UNIVERSITY

僕（無言）

詩　人

場　所

ロンドンの立派な町

訪問した家から、立派な紳士が戸口に出て來る。服裝は申分ないが、帽を被つてゐない。最初途方に暮れた樣子。次いで一心に思ひ詰めた氣色。

紳士。どうも外にしかたがない。死ぬるまでの事だ。

（職工登場）

もし、もし。甚だ申し兼ねるがねえ。實はお前が遣つてくれると、ひどく助かるのだが。只ちよいと此内へ這入つてさへくれると。

職工。なんですかい。それは、檀那、わたしに出來る事なら。

紳士。なに。大した事ではないのだ。お前がそこのベルを押して、内へ這入つてから云ふのだ。さう。かう云へば好い。ちよいと水道を見に來ましたとか、なんとか、そんな事を言ふのだね。そしてわたしのシヤツポを取つて來てくれるのだ。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

職工。あなたのシャッポですか。

紳士。さうだ。お前の見る通、わたしはシャッポを此内に置いて來た。(窓へ指さしをする。)あそこの座敷なのだ。長椅子の下へ半分入れて置いたのだ。お前が、つひはいつて往つて、それを取つて來てくれると、ひどく助かるのだが。

(職工の顏色變る)

どうしたのだい。

職工。(きつぱりと。)いやです。そんな事は御免を蒙りませう。

紳士。御免を蒙るつて。そんな馬鹿な事は言はないものだ。何もお前に迷惑になるやうな事は。

職工。さあ。どうだか知れやしません。

紳士。つひそれ丈の事をするに お前の迷惑になるやうな事がありやうがないぢやないか。まあ、どんな事があるだらうと思ふのかい。

職工。えゝ。それはちよいと見には、何事もなさゝうですがね。

紳士。それ見ろ。そんなら何も。

職工。えゝ。只人の家へ押し込んで往つたつて、命に別條はないでせうが。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

紳士。何も押し込んで往つてくれと云やあしない。

職工。え丶、え丶。それはさうは仰やらないのです。でもなんだか不氣味でさ。何かそこいらにあつて、そいつを持つて來なくてはならないとなると。

紳士。わたしのシャツポさへ持つて來りやあ好いのだ。まあ、聞いてくれ。逃げずになあ。それ。こ丶に金貨が一つある。はいつて取つて來るに、一分も掛かりやあしない。

職工。でも伺つて置きたいのですが。

紳士。何を。

職工。そのシャツポの中にある物を。

紳士。シャツポの中にある物だつて。

職工。え丶。それを伺はなくちや。

紳士。シャツポの中にかい。

職工。え丶。あなたが金貨を一つ下さると云ふには。

紳士。いや。二つ遣つても好い。

職工。い丶え。どうも金貨を下さると云ふところを見ると、只のからつぽのシャツポではありますまい。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

紳士。所がわたしはそのシャッポなしでは濟まされないのだ。シャッポなしでは往來が歩けないぢやないか。シャッポの中には何もありやしない。一體何があるだらうと思ふのかい。

職工。さやうさ。わたしも見とほしぢあないから、わかりませんね。まあ、何か書いた物かなんか。

紳士。書いた物。

職工。え丶。書いた物がはいつてゐて、あなたがそれを手に入れると、この立派な内があなたの物になると云ふやうなわけぢやありませんか。そこでわたしは好い馬鹿を見るのだ。

紳士。まあ、聞いてくれ。シャッポは全くからつぽなのだ。たがわたしは是非シャッポがいるのだ。若し何かはいつてゐたら、それは皆お前に遣る。此金貨二つも一しように遣る。どうぞはいつて取つて來てくれ。

職工。さやうさね。まあ、承つた所では理窟に合つてゐますが、

紳士。さうさ。さあ、はいつて取つて來てくれ。

職工。すると、まあ、わたしも文句はありませんや。あなたも文句はおありなさらないのだ。だが警察といふ奴がありますからね。そいつがなんとか言ひ出すと。

紳士。そんな途方もない。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

職工。何がです。

紳士。お前しやうのない馬鹿だなあ。

職工。何がです。

紳士。まあ、聞いてくれ。

職工。へん。大抵お里は知れてゐらあ。

紳士。おい、おい。往つちまつちやあ困るなあ。

職工。あかんべえ。

（職工退場。青年登場）

紳士。もし、もし。ちよつとあなたに願ひたい事があるのですが。御覧の通 わたしはシャッポを被つてゐません あなたがちよいとわたしのシャッポを取つて來て下さると難有いのですが。まあ、ちよいと柱時計を巻きに來たとかなんとか云つて、取りに往つて下さるのですね。つひ此家の座敷に置いて來たのです。半分ソファの下へ入れるやうにして。

青年。さうですか。只。

紳士。遣つて下さるのですか。難有う。非常にしあはせします。つひ時計を巻きに來たと云つて下されば。

青年。さあ。僕はどうするものだか好く知らないのですが。

紳士。なに。それはなんでもありやしません。只時計の前に往つて、ぎいぎい云はせて下されば好いのです。誰が遣つたつて同じ事です。それからちよつと言つて置きますが、そこには女の人が一人ゐるのです。

青年。へえ。

紳士。なに構はないのです。平氣で前を通つて、時計の所へ往つて下されば。

青年。併しどうも、困りますなあ、そこに人がゐては。

紳士。なに。極若い女です。そして別品です。非常に。

青年。併しなぜあなた自分で取りに往かないのですか。

紳士。それは不可能です。

青年。不可能とは。

紳士。それはわたしは足を挫いてゐるからです。

青年。へえ。痛みますか。

紳士。えゝ。ひどく痛いです。

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

青年。そんならわたしがあなたをおぶつて梯子を登つてはどうでせう。おぶれるかしら。

紳士。いや。そんな事をすると痛みがひどくなります。かうぴつたり足を地に附けてゐるのが一番好いのです。

青年。そんならあなたどうして内へ歸ります。

紳士。なに。平地を歩くには差支ありません。

青年。ところでもうお暇しませう。思つたより遲くなつたやうですから。

紳士。まあ、待つて下さい。わたしはシャッポなしで置いて往かれては困りますなあ。

青年。いや。もう往かなくちや。思の外遲くなつたのですから。

(青年退場。詩人登場。)

紳士。もし、もし。ちよいと御覧なさい。出し抜けにお留申して濟みませんが、少しあなたのお手が拝借いたしたいのです。若し御承知下さると非常に難有いのですが。わたしは此家に訪問に參つて、シャッポを忘れて置いたのです。ソファの下に入れ掛けて置いたのです。あなたちよいと、ピアノの整調に來たとか、なんとか云つて、此家におはいりになつて、それを取つて來ては下さいますまいか。

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

詩人。なぜあなたは御自身に取りにお出なさることが出來ないのですか。

紳士。どうもわたしには出來ないのです。

詩人、併しなぜ出來ないか、若し其理由をお話になつたら、場合によつては、取つて來て上げまいものでもないのですが。

紳士。どうも出來ないのです。わたしは二度と此家の閾をまたぐことが出來ないのです。

詩人。ふん。では人殺しでもして來られたのですか。若しさうしたわけなら、わたしに是非其顚末を話してお聞せなさい。一體わたしはそれ程倫理には興味を有たない方ですから、それをお話になつたからと云つて、決してあなたの首を胴から離したいなどゝ云ふ希望を起すやうなことはないです。

紳士。あなたそんな事を仰やるが、このわたしが人殺しをする人間のやうに見えますか。

詩人。いや。さうぢやありません。無論あなたはさうは見えない。わたしの云つたのは縱令あなたが人殺しをなすつたにしても、それをわたしにお打明になつて差支ないと云ふことを、あなたにわからせたかつたのです。わたしには刑法などゝ云ふものは退屈な感じがする。これに反して人殺しとなると、どんな人殺しでもわたしに感興を與へるのです。わたしの作るのは優美な極纎巧な、

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

抒情詩です。其癖、お話すれば矛盾のやうに聞えますが、わたしは毎朝新聞にある刑事裁判の記錄を讀みます。そしてわたしの同情は必ず被告の方にあるのです。

紳士。併しわたしは人殺しではないと云つてゐるぢやありませんか。

詩人、そんなら何をしでかしたのですか。

紳士。わたしは此家のお孃さんと喧嘩をした擧句に、これから志願兵になつて、アフリカへ往つて死ぬると云つて出て來たのです。

詩人。はあ。さうですか。それは盛んですなあ。

紳士。ところで殘念ながらシャッポを忘れて出て來たのです。

詩人 すると、あなたは失戀のために遠征して屍を原野に曝さうと云ふのですね。昔の Troubadours（トルウバドウル）はさうしたものです、

紳士。ねえ、あなた。シャッポを取つて來て下さるでせうね。

詩人。わたしは喜んであなたの求に應じます。併し人の家にはいつて往くのですから、なんとか口實を設けなくては。

紳士。それはつひピアノの整調をしに來たとでも云つて下すつたら。

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

詩人。それは遺憾ながらいけません。わたしには非藝術的に鍵盤を敲く音を聞くのが非常な苦痛です。或る國々では罪人を責めるのに頭の同じ所に、冷水を斷えずぽたりぽたりと落すと云ふことです。丁度其苦痛と同じ事です。わたしは。

紳士。そんならどうしたら好いでせう。

詩人。わたしは或る家にゐたことがあります。詩人には氣持の好い、邪魔のない周圍が必要です。其家では好意のある人達がわたしにさう云ふ周圍を造つてくれたのです。所が其家に女の家庭敎師が一人ゐて、ピアノが一つ置いてあるのです。わたしはそれに責められて其家を出ました。それから其家の人達の顏を見る度に、わたしは其苦痛を思ひ出さずにはゐられなかつたのです。わたしが心に抑制を加へて、其人達の顏を見ても、身ぶるひをしないやうになるまでには、實に數年の星霜を閲したのです。

紳士。そんなら何か外の口實を工夫しなくつては。

詩人。實にあなたは全然慰藉を見出すことの出來ない此時代に昔のロオマンチックを齎して下さるのだ。王が敵と刄を交へに往く時、必ず愛する女の寢衣を襲ねて出たと云ふ、詩にあるやうな時代のロオマンチックをあなたは齎して下さるのだ。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

紳士。さうです。さうです。併し差當りわたしはシャッポを取り戻したいのですが。
詩人。それはなぜですか。
紳士。どうもシャッポなしで往來を歩くことが出來ませんから。
詩人。なぜ歩くことが出來ません。
紳士。歩けないぢやありませんか。
詩人。ではあなたは無用の外觀と、人生に重大な意義を有する事物とを混同してゐられるのです。
紳士。さあ。あなたが人世に重大な意義を有する事物と仰るのはどんな物だか、わたしにはわかりませんが、服裝を整へてゐなくてはならぬと云ふことは、ロンドンでは隨分重大な事かと、わたしは思ふのです。
詩人。帽子は人生に重大な意義を有してはゐません。
紳士。わたしはあなたに失禮な事を申したくはありませんが、わたしのシャッポは少しあなたのとは違ひます。
詩人。まあ、そこらへ掛けて話さうぢやありませんか。意義を有する事物を話題として話したいですね。百載の後に至つても人の記念に殘るやうな事物を話題として話したいですね。

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

（二人腰を掛ける。）

先づさう云ふ約束の上で考へて見ると、帽子が平俗で話題にならないと云ふことは直ちに明白になるです。これに反して、死ですな。失戀のための、美しき死なら、詩にすることが出來ます。事物が重大な意義を有するか、どうかと云ふことは詩になるかどうかと云ふ點で鑑別することが出來ます。まあその失戀のための死を詩に書いた所を想像して御覽なさい。帽は詩になりませんなあ。

紳士。併しあなたがわたしのシャッポを詩になさることが出來るか、出來ないかは、わたしにはどうでも宜しいのです。わたしはシャッポなしでロンドンの町を歩いて人に笑はれてはならないのです。あなた取つて來て下さいますか、いやですか。

詩人。併しピアノの整調と云ふことは、わたしはどうしても關係することが出來ないのです。

紳士。そんならガス煖爐を直しに來たと云つて下すつてはどうでせう。煖爐は窓の下の所にあります。それが工合が惡くなつてゐるのを、わたしは偶然知つてゐますが。

詩人。煖爐は裝飾附でせう。

紳士。えゝ。さうのやうでした。

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

詩人。さうだと、わたしはそれを見たり、それに接近したりすることを、斷然おことわりします。わたしはさうした煖爐の鑄鐵の裝飾と云ふ奴を知つてゐます。あれはたまらない。わたしはいつかエジプトのBes（ベス）と云ふ神を見たことがあります。腹のふくらんだ神で、醜いのが本來の性質なのです。所が二十世紀の工場で出來た室內裝飾と來ては、あのベスよりももつと醜いですなあ。一體鑄物師なんと云ふものは、藝術とは沒交涉な人間です。それが室內裝飾師を遣るなんて、けしからんです。

紳士。すると、これもいけませんか。

詩人。わたしは醜い物は見たくない、いやな音は聞きたくないです。何か外に工夫はありませんか。方法次第では隨分犬馬の勞を取らないでもないですが。

紳士。どうもわたしには思付がありません。あなたは室內裝飾をする人とも見えないし、時計職人とも見えないし、何をする人だと云つて好いかわかりません。それにわたしはひどい目に逢つて來たので、落ち着いて物を考へることが出來ないのです。

詩人。すると、あなたの帽を現在の位置に置くより外ありませんなあ。

紳士。なぜあなた工夫し　は下さらないのです。あなたは詩人だと仰やるのですから、考へるのは商

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

賣のやうなものぢやありませんか。

詩人。それは帽なんと云ふ無趣味な物の上に、或る時間わたしの想像を働かせることが出來たなら、工夫の付くまいものでもありません。併し題材があまり無價値なので、どうもわたしの想像を寄せ付けないらしいです。

紳士。(身を起す。)しかたがありません。わたしは決心して自分で取りに往きます。

詩人。まあ、お待なさい。それは止めて下さい。あなたがどれ丈の事をするのだと云ふことを、熟考して見なすつたら、そんな事は。

紳士。えゝ。わたしがどれ丈馬鹿らしく見えるか、それはわたしに好くわかつてゐます。併しロンドンの町をシャッポなしで歩くよりは增しですから。

詩人。いや。わたしはそんな事を言ふのではありません。さうぢやない。あなたはいつて往くと、中直りをするかも知れない。あなたは女の不都合を赦す氣になる。そして結婚する。家庭を作る、さうざうしい子供が大勢出來る。そこでロオマンチックは死んでしまひます。どうぞそのベルを押さないで下さい。それよりかあつちへ往つて、銃劍や其外入用な物を買つて、志願兵におでなさい。

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

紳士。併しシャッポなしではどこへも往かれません。

詩人。シャッポがなんです。一箇の帽のために美しい運命を犧牲にすると云ふことがありますか。まあ、想像して御覽なさい。失戀のために、あなたの骨が、茫漠たる、黄金色の砂の上に、無慙にも委ねられてゐると云ふことになるのですよ。「無慙にも委ねられる。」此句はKeats（キイツ）も使ひました。好い句ぢやありませんか。アフリカの砂に委ねられるのです。其骨の傍を、白晝にはBedawi（ベダアヰイ）族が冷然として過ぎる。其骨の畔に、暗夜には獅子の吼える聲が聞える。沙磧の宏大な音響です。あなたの名はロオマンチックの黄金の口吻で傳稱せられる。ロオマンチックがアフリカを視る、感じはわたしが視ると同じです。

紳士。いや。もうお暇をしてシャッポを取りに往きます。

詩人。まあ、お待なさい。好く考へて御覽なさい。あなたが一たび此扉の奧に隱れると、あなたはもう志願兵にはなられない。あなたは異域の鬼となることが出來ない。骨を塞外に曝すことが出來ない。茫漠たるサハラの原に身を横へることが出來ない。此家の孃さんはあなたの美しい死に涙を灑いで上げて、あなたを斥けた、甘い悔を味ふことが出來ない。

紳士。しつ。あれ、お聞なさい。ピアノを彈いてゐます。さぞ心細く思つて、これから先何年が間もわた

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

しの事を氣の毒がつてくれるだらうと思つたのに、ピアノを彈いてゐます。一通の事ではありません。どうかしたのです。早く往つて見なくつては。

詩人。なに。孃さんはわたしが慰めて遣ります。

紳士。そんな事をあなたにさせて默つてはをられません。

詩人。まあ、落ち着いてお聞なさい。さう云ふ意味で、わたしは慰めると云つたのではありません。

紳士。そんならどう云ふ意味です。

詩人。わたしはあなたの事を歌に作るのです。面白い歌も、悲しい歌も出來ます。面白いのはトルウバドウルの華やかな習慣を歌ふのです。悲しいのはあなたの失戀と最期とを歌ふのです。わたしは物語にも作ります。例之へば古戰場のオヤアズで、ペダアキイ族があなたの髑髏を見出す。そしてこれも「紅閨夢裏の人」かと歎ずると云ふやうな筋ですね。わたしはそれを孃さんに讀んで聞かせる、すると、孃さんが泣くでせう。それから功名を歌つた歌を讀んで聞かせる。千載不朽の名に比べては、目前の快樂なんぞは。

紳士。ちよつとお待なさいよ。あなたは此家の令孃とはお識合ではないぢやありませんか。

詩人。そんな事はなんでもありません。なんでも。

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

紳士。なんだかあなたのお話を聞いてゐると、あなたはちつとも早くわたしを土人の槍に衝き刺してしまひたいのだとしか思はれません。兎に角わたしはシャッポを取つて來なくつては。

詩人。どうぞそれはよして下さい。わたしのお願です。華やかな戰闘、意氣を重んずる功名、萬死を出でて一生を得る冒險、殘忍な女子に徒に話して聞かせる戀物語に掛けて、わたしは願ふ。琴の緒の如くに斷えた戀人の玉の緒に掛けて、わたしは願ふ。昔から傳はつてゐる、神聖なロオマンチックに掛けて、わたしは願ふ。どうぞそのベルを押さないで下さい。

(紳士ベルを押す。詩人は無限の蔑視を以て腰を卸す。)

あなたは結婚するのだ。時々汽車の切符を買つて、細君をパリイなんぞへ連れて往くのだ。カンヌあたりへも往くかも知れない。そのうちに子が出來る。見渡す限りうよ〳〵と子が出來る。わたしは誇張して言ふのですよ。あなたは稼いで、金を拵へて、妻子を飼つて置く。世間の丸庸俗惡な奴等と擇ぶことなしですね。あなたが死んだつて、名を千載に垂れる記念像は立たない。只、

(僕が一人ベルを聞いて出る。紳士はそれに何やらさゝやいて戸口を入る。詩人は起ち上がつて兩手を高く擧げる。)

只此家の壁に銅に鐫つた記念牌が懸けられるばかりだ。其文は「ロオマンチックは此に蘇し、忽又短命にして死せり」と云ふのだ。

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

（詩人腰を卸す。職工と青年とが巡査を連れて來る。ピアノの音が歇む。）

巡査。どんな事件ですか。どう云ふ間違ですか。

詩人。えゝ。非常な、宇宙に瀰蔓する程の間違です。今ロオマンチックが殺される所です。

巡査。（職工に。）此人は何を言つてゐるのだらう。

職工。一體けふはどいつもこいつも變な事を言ふ日です。

（ピアノの音が又聞える）

詩人。おや。大變だ。四手の彈奏だ。（二人で彈いてゐる。）

巡査。此人はどうかしてゐるな。

職工。此人よりか今一人の男が、お前さんに見せて上げたかつたのです。

（一幕）

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

中性論

（エドワード・カアペンター）

青山菊榮抄譯

四　愛情の教育

從來教育といへば智育（及體育）に局限されてゐて、感情の方向は全然省みられ無かつたのであるが、近來漸くその心身の建設に及ぼす甚大な影響が認めらるゝに至つた。感情の進化及其の或程度までの形成は自今教育家の重大な職責となるであらう。

學友間に親交の結ばれる事は無論事實である。少年時代を省みてさうしたなつかしい追憶をもた

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

ないものは恐らくあるまい、又自から經驗をした人はそれと丶もにさういふ關係は全然公認されず、從つて其の力と價値との大部分は浪費されてしまつた事も想ひ出すであらう。然し兎に角、少年時代又は少女時代に始めて感じた强い愛情が深奥な感化力をもつ事は明白である、即ち長幼の學生間に、又は時として起る樣に——少年と敎師との間に起る時は重大な敎育力を發揮するのである。

さういふ感情が激烈なロマンチックな形をとる事は誰も認めるであらう。次に揭げるのは或人が十六歳の時、や丶年長の青年に對して感じた愛情を述べたものである。

> 彼故には百の死をも私は辭さない程であつた。彼に出遇はんがため(いはゞ偶然擦れちがふにすぎない)にしたいろ〱の工夫は青年が戀人に對するそれと同じであつた。而して彼に出合つた時は息がつまつて物も云へない程胸がおどつた。私と彼とは——で出遇つたのであるが、彼が其處に滯留した數週間といふもの、私は他に何も考へる事が出來なかつた——夜も晝も彼のことを思ひ詰めて居た——而して彼が倫敦に歸つて後は毎週手紙を書いた——幾枚にわたる戀文を書いた。二人の交情は數年間繼續したが其間私はついぞ嫉妬を感じた事がなかつた。この熱情は激烈な奔放なものではあつたが、性的感情とは全然別個のもので、私にとつては飽迄健全な良好なものであつたと私は信じてゐる。其れは明らかに私の成長を資けたのである。

シエレーはその「友情論」で學校時代に結んだ友誼を讃美してゐるし、レイ・ハントもその自叙傳に同

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

様の經驗を語つてゐる。學校生活を經た者は誰しもさういふロマンチックな獻身的な愛のよく成立つ事も、又それが敎育上侮り難い力をもつ事も認めるであらう。

さういふ愛情が甚大な効果を齎らす事もあるのは自明の理である。年少の子は年長の少年を勇者(ヒーロー)と仰いで之と共に居る事を喜び、其の賞讃又は温情に富む言葉を得ては歡喜に胸をときめかせ、凡ての標準を之に求め、運動遊戲より習癖に至るまで模倣し、又は智識を收得する。年長の少年も其の誠意に動かされて庇護者補導者となる。そこで其の公明な方の性質が發揮されて來るのである。

時によると師弟の間に斯ういふ愛情、又はその幼芽が發生する。かういふ愛の前には年齡、敎育、階級の差などは全く問題にならないのである。私は十一二歳の少年が廿四五歳の青年にあてた手紙をもつてゐる。その子は隨分亂暴な腕白者で兩親(勞働者)をてこずらせたのであつたが、夜學に通つてゐるうち、相手の青年なる敎師に强烈な愛を注ぐに至つた(尤も敎師の方ではことさらに相手の心を惹かうともせぬ代り、その愛をはねつけもしなかつた)。茲に眞にこの子を動かし得る唯一の力が見つかつた譯で彼は迅速な良好な發達を遂げた。

少年の擴大して行く心にとつて、賢明な同性の助力と愛情とがどれ程尊いものであるかは今更云ふまでも無からう。(其の時代には異性に對する愛はまだものにならない。)然もさういふ愛情關係の効

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

果は畢竟年長者の人格、その自制力、温情、及理想の如何に依るのである。希臘の風俗が青年と少年との關係を重大な國民的制度として認めたのみならず、その行爲に關して明文律をさへ設けたのは如上の理由に據るのであらう。

例へばさういふ關係はクリート島では近親の許諾を得て公然と結ばれたものである、年長者の位置は明白に限定されて居て、年少者を訓練して之に武技狩獵等を仕込むのはその任務となつてゐた、又年少者の方では侮辱毀害を被つた場合にはいつでも法律に訴へて倍償を求める事が出來た。一定の見習ひ期間が終つた後は年少者の心次第でその關係は持續されるなり斷絶されるなりする。持續される場合には少年は青年の扈從となり、青年は少年の武具裝束一切の負擔を負はなければならない。爾後二人は相並んで出陣するのである、クリート人の說に依れば「愛」の神と軍の神とに二重に力を添へられるのだといふ。スパルタ其他希臘の諸邦にもかういふ習慣が在つた。なほその外文明の國に接してゐた半未開種族の中には廣く行はれてゐたのである。

翻つて現代の社會に想倒し、その實況を觀れば、單に高遠な理想を缺くのみならず、最も恐るべき弊害に陷つてゐるのに一驚を吃せざるを得ないのである。大きな公共學校の內情に通じてゐる人達にはこゝで特に說明するにも及ぶまい。余の一友人はかういふ事實を告げた、即ち其人の學生時代に

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

は一方に淫行猥談が盛に行はれると共に、他方には純潔な愛情を抱いて、勇烈果敢な行爲をさへした者も尠くは無かつた、が教師も學生もこの二者を一つものに見て同じ樣に卑しめた。全く何等の區別も認められ無かつた。此の少年時代の熱求を指導すべき規矩標準は一として與へられなかつた、而して寄宿の小使に敎へられて始めて性の秘密を知つた少年らは互に弄び合つた。

かういふ中に在つては高尙な友誼を結ぶ機會が甚だ稀なのは當然である。もし年長者が肉慾に傾いて居たならばたやすく好機を獲るであらうし、又さうで無かつた際にも周圍を見ては自己の純潔な愛情にも疑をさしはさんで、その性格の最善の方面を否定し抑壓してしまふであらう。……

何と云つても少年時代に最も大切なのは純潔といふことである。純潔の期間を延ばすのは成長の期間を延べる事になる。これは簡單な生理上の法則である、これが純潔を貴重なりとする最大の理由である。若少の頃から肉的性的習慣をつける事は――殊に最も惡いもの丶一は手淫である――生理的心理的に成長を阻む所以である。

更に恐るべき事はこれが「愛する力」を阻止する點にある。予は異性間にせよ同性間にせよ、愛はまづ、何等かの神嚴なものに對する憧憬又は驚異の情としてうら若い心に自然に湧起するものであつて、始めは性に關する明白な自覺も概念も伴はないものだと信ずる。其の情操は次第に澎大して滿ち

潮の様に心のあらゆる隈々を滿たしてしまふ、而してそれが明白な性的傾向を帶びない時期が長ければ長いだけ、情的方面の成長及發達の期間が延びるので、從つてその人格に美と力とが加はるのである。凡ての經驗は早熟が「愛の能力」を低減せしめ薄弱ならしむる事を證明してゐる。

そこで吾人の前には二つの重要な問題が橫たはつてゐる、即ち一は友交、一は少年少女の性に關して抱く自然な好奇心である。後者は無論極めて當然な興味である。發情期の少年は其の身體に起つて來た變化、其の意義及職分を自ら知り度くも思ひ、又當然知る可きである。知らせた所が深い所までは行き得ないのであるし、又ざつとした話だけで氣が濟むのではあるが、とにかく好奇心をもつ事は確に事實であつて、多少頭のある子ならばどうにかしてそれを滿足させずにはおくまいと思はれる。此の欲望は確に心理的である。肉體的欲望は例外の場合の外まだ確然とあらはるゝに至らないのみならず、當初は性交の樣な性質を帶びるものは非常な不快を感じさせるものである、が智識に對する渴望は依然として存在して居る。又それが當然の理だと予は信じる。不思議にも現代だけは例外であるが、其他のあらゆる社會を通じて若い男女に性に關する智識を注入する風習はあつたのである。而してそれと同時に女として又は男としての理想、勇氣、忍耐、及市民又は武士としての本分を教へたのである。

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

ところが現今の學校はどうして居るだらう。學校は一切の問題を追ひ込めてはたと戸を閉てゝしまつた、あとには沈默――無氣味な沈默がある許りである。そこで合理的な好奇心は不合理なものに變つてゆき、以前は無かつた慾望が忍び込んで來る。少年の自然の要求に耳をかさずにゐれば、禁制の智識は次々とひそかに傳へられ、賢明な妥當な説明を與へぬ時は卑語淫話が其の代りをする。かくて不健全な所行が誘致せられ、かくて性の神聖は永久に汚されるのである。この二つの潮流、即ち理想的愛情と性慾との遭遇點は一種の危機を成してゐる、始めてこの二者が出會する時は、最も順潮な場合ですら何等かの心的葛藤を伴はない譯には行かないのである。然るに現今の學校では高尚な感情は人工的に抑壓され劣等な情慾は時に先だつて促進させらるゝが爲めに、二者の出會に際して忽ち後者に勝を制せられるのである。教育家諸氏が不節制を攻擊されるのは如何にも尤もであるが、其の攻擊の仕方に至つては遺憾ながら賛意を表し難い。即ち之に對するに無氣味な沈默と徒なる憤怒とを以てし、膿腫を愈々深く追ひ込み溝を堀くに外ならぬのである。而して一旦事が起れば眞の愛情と然らざるものとを混同してしまふのである、獨り自ら混同するのみならず無垢の少年にも其の謬見を頒つのである。

近頃のことであるが或大きな中學校の校長が廊下で二人の少年が抱擁してゐるのに出會し

た。恐らく――否大方――これは純な愛情を無邪氣に自然に發露したものに過ぎなかつたのであらう。とにかくこの行爲其ものに直ちに善惡の批判を下し難いのは明白である。が校長の處置はどうであつたか。彼は二少年を自分の部屋へ呼び込んで、さういふ行爲も其の結果も自分には十分分かつて居ると云つて其の不埒なる所以を說き双方を重く罰した。これほど愚な事があらうか。もし二人の交情が純潔な自然なものであつたとすれば、校長は却てそれを汚らはしい不自然なものと感じさせて、美しい立派な事を耻づべき事と思はせたに過ぎない。もしまたその行爲が淫慾の萠芽であつたとしても――どうもさうは思はれないが――とにかくさうであつたにしてもなほそれを立派な友情と看做して、二少年を一所になり別々になり引見して懇に更に高尚な理想を吹き込むべきである。もし又校長が其の愛情其物は純美なものにしてもやがて望ましからぬ行爲を招發する恐があると眞から思つたにしても猶、二人に罰を課すれば却て相互の愛を鞏固にし隱慝の原因を强め益々深入させるに過ぎないのである。然かも方今該問題に對する學校の處置が凡て斯かる誤謬を繰り返して居る事は誰しも否む事が出來まい。一方から云へば敎育者は親しく一人一人の少年に接する暇もなく、又其の小社會に人生及行爲の新理想を紹介する力もなく、從つてこの問題をどう處置して好いか分からないので、無鐵砲な過酷な無意味な沈默の主義に流れつくのであ

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

る。

予は教育家諸氏が上述の二つの要求を公然認めて、之に適當な滿足を與へぬ限り、この難問題を解決する事は出來まいと信ずる。

少年(及少女)の智識の要求——正當な好奇心——に滿足を與へるには(一)生理學の教授、(二)友情に依て結合したる長幼二者間の内密の談話の二途に依るべきである。第一の方法は幸にも既に少數の進歩的な學校で採用されて好果を收めて居る。尤も通常これは生殖の事實をのみ知らせるのであるが、適當な方法をとればさういふ關係よりは遙かに高大な尊い理想を若い心に印することもむづかしくはない。さて第二の方法であるが、假令性に關する初歩の智識及生理學の一端は教場で敎へられるにしても、もう一歩進んだ智識及實地に際しての補助は親密な年長の友人から得る外無いのである。かういふ場合に父なり母なりが年長の友人の役をすることもあらう、それは至極結構な事で將來の人の親はさういふ點も心に留めておいて欲しいものである。が、どういふ譯か(英國の)親子の間にはとかく妙な隔てがあり勝ちで、學校で多く時を過ごす少年は兩親よりも友達の影響を蒙る方が多い。從つて純潔な高尙な友誼を奬めて、多くのデリケートな問題を相議らしめ性に關する賢明な男らしい行爲の槪念を抱かせるのは最も重要なことである。

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

無論この種の改革の第一歩は極めて困難である。一方教育家は少年同士又は少年と教師との愛情には肉慾の外何ものもないと斷ずる頑迷な輿論の制肘を受けることも甚しい、這般の消息に通じて之を正當に理解してゐる教師も隨分多いのではあるが、彼等は輿論の手前如何ともし難い立場に居るのである。

英國人がさういふ愛の表現を恐れるさまはたしかに滑稽である。この愛は現に存在して居るので、又誰しも其の存在は認めてゐるのである、が吾人は頭を砂中に埋めて見ぬふりをして居なければならない！　而して萬一どうでも見ぬふりをして濟まされぬ時はそれによしない疑ひを懸けて、依て吾人の偉大な辨別力を見せつけるのである。斯くして吾人は人性の至高至貴の要素の一を掃き溜めに投げ込んでしまふのである。もしも一切の自然の愛情を否定し邪推する事が有利であるならば、その證據が學校にあらはれて來べきである、が其の完膚なき失敗を見ては如何してもこの方法が誤つて居ると思はない譯にはゆかないのである。

以上は主として男子に就て言つたのであるが女子に就ても亦同樣の事が云はれる、たゞ兩者の相異を云へば女學校に於ける友交は輿論に抑壓されずに却て奬勵される傾向をもつてゐるのであるが、

殘念なことには其の友情は概して薄弱なセンチメタルなもので、其れ自身としても又その誘致する結果から云つても甚だ健全なものとは云ひ難いのである。女子の場合に於てもこの問題は開放してしまはなければならぬ。友情はもつと鞏固な、さほどセンチメンタルでない基礎の上にきづかれねばならぬ、而して婦人にとつては無限に大切な性に關する事項に就ては公私の場合にわたつて賢明な徹底した教授を必要とする。恐らく男子に其の感情を耻かしく思はせず、女子にその感情をもつと健全に表現せしむるには合同教育が有効であらうかと思はれる。

兎に角、畢竟教育の基礎は健全なる愛情におかねばならぬのであり、且この事實を認めぬ限り現代の學校教育の困難を到底解決し得ぬ事は深く思を致すに隨つて愈々明白になる。かういふ變化が現在の學校制度に一大革新を來すことは免れ難いが、しかしどの道全社會に起りつゝある他の變化と共に必ず來るべきものである。

五　社會に於ける中性者の地位

中性者が社會に提供する幾多の問題に就ては如何に意見が相異するにせよ――又中には解決の至難な問題が在るにせよ――とにかく或一事だけは動かし難い事實の樣に予には思はれる、即ち中性

者の多数は實際に大抵の貴重な社會的事業を遂行して居り、その原因も力も多少其の特殊なテムペラメントに發して居る點である。

この事實は一般に認められて居ない、これは上に述べた樣に一には中性者其ものが今なほ認められて居らぬがため、一には中性者自ら其の傾向を隱蔽するが爲めである。誰々が果して中性者であるかといふ事が知れたならば、其中に出る偉人傑士の名に世界は一驚を吃するであらう。

そこで中性者が貢獻した、又は現にしつゝある方向の一端を窺ふのも强ち無駄ではなからうと思ふ。無論さういふ優秀なタイプと相並んで一方には輕浮な薄弱な不德な、社會に何等貢獻する所なき中性者の居る事は予も認める、しかし常規な人の中にもさういふのはいくらもある。一方に何にも爲ぬ人間が存在すればといつて、他方に重大な事業を成就する人々の存在する事實を動かすことは出來ない。こゝで一言しておきたいのは、予の所謂中性者とは其の生活及活動が專ら同性の愛に激勵される人々のことであつて、其の友人との愛の關係がどれ位の程度かといふ事は問題にしてゐない點である(其論そこまでは第三者の知り得る筈も無い。)中性者の或者は淸淨な節制的な生活を送つてゐやうし、或者は隨分肉的な傾向をもつて居やう。どちらにせよ、とにかく其の同性に對する愛が最高の努力を生む特殊のタイプをこゝでは論じてゐるに過ぎないのである。

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

上に述べた通り中性者は(多分男女兩性の氣質を兼有するがために)すぐれて敏感で情的である。その當然の結果として音樂家文學者畫家等藝術にたづさはる人々にはこのタイプの人が非常に多いのである。藝術家を作る靈妙な纎細な同情はまた中性者(男子の)特徴であり、從つて中性者は容易に、又は自然に藝術家となるのである。クラフト・エビング、ハヴエロック・エリス其他諸家の集めた實例に徴しても中性者の中に藝術家の多いことは顯著な事實である。エリス曰く、

「予の實驗の結果、被驗者の中三十二人―百分の六十八―は程度は異るがとにかく藝術的傾向を帶びてゐた。所がガルトンは殆ど千人許りの人を調査した結果、普通の英國人には百分の三十の割にしか藝術的傾向を帶びてゐるものは無いと云ふ。序に云つておかなければならないのは、予の統計は實際よりよほど控え目になつてゐる點である、それは調査に際して明確な標準を立てゝおかなかつたのと、多くの被驗者の藝術的傾向がよほど高級なものであつたが爲めである。さてさういふ人々の職業であるが、彼等はどんな方面にも混り込んでゐる、が特に中性者のよろこぶ職業も無いではない。演劇などは確にその一である。予の被驗者のうち三人は俳優であり、其他演劇的才能に富む者も多かつた、各種の美術及音樂は其論中性者に愛される。しかし予の經驗では中性者を最も多く吸收し且その最も成功し易いのは文學であるらしい。とにかく予の被驗者のうち六人まではーかどの文士であ

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

つた。』

同性の愛を扱かつた文學、及多少さういふ愛の影響を蒙つた大文學者に就ては前にも述べた。が更に進んでかう云ふ事が出來る。即ち近代美術文學家及詩人で希臘の理想及生活を解釋し再設するに與つて力のあつた人々―ウインケルマン、ゲエテ、アッヂントン・シモンズ、ウォルター・ペーターの如き―はこの氣質を著るしく帶びてゐたのである。

彫刻家及畫家――殊にルネッサンス時代の伊太利に於ける――には同性の愛からインスピレーションを受けたものが尠くない、ミケランジエロ、レオナルド、バズイ、ツエリーニなどは皆これである。次は音樂であるが、音樂はその微妙幽玄な趣に依り、更に亦その情緒に耽る傾向に依り最も中性者に愛される性質をもつてゐる。實際彼等のうち多少の音樂的才能を有たないものは極めて稀である――尤もその方向で顯はれて居るのはチャイコウスキーの外にあまり無い樣であるが。

教育もまた中性的氣質を帶びる者が自然に向く事業の一である。少年少女の爲めに一身を捧げる良師はどれ程貴い大事業をしてゐる事であらう。而してさういふ事業に敢て身を投じ得る者は、特に年少子女に對して熱愛を懷抱する人々に極まつてゐる。新進の思想家にして文學者たる予の一友人はかういふ事を話した、即ちその人の今日あるは偏に少年時代の友人の厚誼によるので、其友人は幾

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

年の間毎日彼に會つて知育德育の各方面にわたつて彼を補導し、若い心の望むがまゝに愛と敎示とを與へたといふのである。又或少年の話に依ると其子は或青年の手に依て飲んだくれの兩親の手から救はれ、其後さまぐ\の世話をうけて一人前の人となつた、外にも同樣な事情でこの青年に救はれた者は無數であつた、然るに一旦此青年に敗德行爲がある樣な噂が立つと、世間はその人のした有益な事業も省みず、誹謗讒誣の中に尊い一生を葬つてしまつたのであつた。無論かういふ青年がその特權を利用しやうとする場合も絕對に無いとは云はれまい、がそれにしても社會の制裁は確に過酷である。

今日の博愛事業がどれほどかういふ感情の影響を蒙つて居るか——即ちさまぐ\の意味に於て貧しい婦人達を救ふ婦人や、少年の傅育庇護の任に當たる男子のうち中性的氣質を帶びる者がどれほど多いか——は明言する事は出來ないが、兎に角非常な數に昇つてゐることは確である。

愛神(エロス)は偉大なる平等の神である。眞の民主政(デモクラシイ)を最も鞏固に築くには地位階級の差を容易に打破して、社會の上下を最も緊密に結合せしむる情操に基礎をおく外あるまい。敎育も地位も共に優秀な中性者がより粗雜なタイプ——勞働者の如き——と永久的な親交を結ぶ事も珍らしくない、かういふ點は今なほ一般に認められてゐないが、社會の制度、習慣及政治上の傾向に多大の影響を及ぼすの

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

である。余の知つて居る限りでも、少くとも勞働者に自己と同等の生活を營ませる事を營業の目的として居り、且個人として勞働者の敬愛の的となつて居る傭主がある（掛け引きを唯一の能事とする世間の事業家にはとても信じられまいが。）斯樣にして中世に行はれた組合又は團體の樣なものを、もつと親密な情合を基礎として再興する事も不可能ではなからう、實際さういふ徵候が近來見えて來た樣に思はれる。

以上の例に照らしても中性的氣質が全人類をつなぐ崇高な情想の源泉となり、中性者が金錢法律其他現今の社會を支配し束縛して居る外面的連鎖に代ふるに親情と憐愍とを以てして、早晚吾人の生活を一新すべき大運動の先驅者たる運命を擔ふて居る事は殆ど疑を容れぬ。

中性者が概して感情的であり敏感であるのは事實であるが、それにしても皆が皆夢想的なのでは決して無い。時には特別に、意想外に實務的なのもある、而してさういふ人は實業の方面などに腕を振るつてよく部下を援護指導するものである。軍事上にもさういふ才能を發揮する者が在る。中性的氣質（男子の）は概して軍事に興味を持たない、戰爭の殘忍な野蠻な性質が平和と文華を愛するこのタイプと相容れぬのは當然である。が、これにも例外はあるので、歷山大王、シーザー、瑞典のチャールス十二世、普魯西亞のフレデリック二世の如きは（近代の例は暫く措く）同性戀愛的氣質を强く帶びて居

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

た上に、卓越した組織及監督の技倆が部下に對する親愛の情と結合して、こゝに絶世の武將を作り、一方それを認めそれに報いんとする部下の愛心が凝つて無敵の軍隊を成したのである。

中性者の中に斯かる實際的手腕を持つ者のある事は爭はれぬ事實である、さうして此事實は他に社會の改設に際し彼等が重大な任に當る可き事を指示して居る。同時に予は政治（黨派的問題及黨派の統治に主力をそそぐ現今の政治）は概して彼等に悦ばれぬ様に思ふ。さういふ政治には個人的及情愛的要素が餘りに缺乏して居る、否むしろ絶無である。單なる「意見」や「問題」や黨爭が概して普通の婦人の興味を惹かぬが如く、中性者も亦之に對しては冷淡である。（但し偶々王家に生れ合はせたがために主權を執つた人々の中には同性戀愛の傾向を強く帶びて居乍ら、同時に卓越した政治的才能を發揮したのも尠くはない。）

以上に述べた様に中性者は藝術教育軍事行政等それ〴〵の方面に秀でる事は出來るにしても、猶最も適して居るのは感情上の問題を取扱ふ職業であらう。

さういふ事に關して中性者よりも秀れた人間は想像すらすることが出來ない。如何となれば彼等の如く男女兩要素のさま〴〵の働き樣を十分に理解し斟酌し得る者は到底在り得ないからである。中性者が教育上のみならず、戀愛や結婚等の問題に關しても常に補助者指導者の地位にある事は彼

等を知る者の等しく認むる所である。男女を問はず結婚生活に不滿な者、又はさういふ方面について困難に遭遇した者が相談をかける者は中性のである、尤も彼等は明らかに中性者であると知つてゐる譯ではないが、十分な理解と同情の得られる事が自然に分かるからである。又中性者は戀愛問題に惱んで何處へ向かつて補助を求めて宜いか分からぬ年少子女の爲めに大に盡す事もある。斯くの如く彼等は自身は認められぬ乍ら、兩性を和解せしめて幸福を與へる事が屢々あるのである。

中性者が社會に貢獻するのは多方面にわたるうち、最大の事業は恐らく此の戀愛問題の解決であらうかと思ふ。前にも言つた通り、愛が(金錢の代りに)社會の連鎖たり統治者たるに至り、其の結果社會が今より遙かに高尙な形を備へんがため一大變革を要する時優秀なる中性者の貢獻する處は絶大なものであらう。如何となれば中性者は愛を最も尊重するものである――通常人の最も多く煩はされ勝ちな私利私慾、業務の成功、名聞を彼等は愛の前に一蹴して悔いる色が無いからである。

斯の如く、一には中性者は最も愛を尊重し、一には其の友交結合は社會の裏面で成立し裏面で繼續して行くが爲めに或程度まで法律の勢力範圍以外に在るのでこゝに面白い結論を生じるのである。

時々次の樣な問題が起る、即ちもし自由が與へられたならば――現在の法規制限が徹廢されたならば社會はどんな形になるであらう。戀愛及結婚はどういふ形を帶びるであらう、といふ事は度々問

題になる 現在はかういふ事に就ては 法律教會及激烈な輿論が干渉して、否應なしに或形を取らせる、而して現行制度のどこまでが人類の自然の本能と常識とから來てゐるのか、又どこまでが外部の壓迫と干渉とに基いてゐるのか、辨じ難いのである。例へば一夫一婦はどの位まで自然であるか人爲であるか、法律の干渉が無ければ結婚は如何なる程度まで繼續するか、離婚は是とすべきか、否とすべきか、嫉妬は戀愛の必然的附隨物なりや否や等は絶えず論せられ乍ら終に結着を見ぬ問題で、往々全然悲觀的な結論を稱へられることもあるのである。

所が中性者の社會には無論不完全ではあるが、兎に角或程度までの自由が存在して居る。社會の表面にあらはれず、從つて其の法規習慣の束縛を受けることが餘り無いので、彼等の間では外的壓迫より内的要求に依て結合の成立も維持も變改も解除も行はれる、故に自由の治下に於ける人間の集合の狀態を看取する機會がこゝで與へられのである。其の結果は甚だ興味が深いと同時に人意を強うするに足るものが在る。概して其の結合は不變である。法律の手を弛めれば恐るべき亂倫の社會が現出する樣におもふ幾多の善良な人々の想像に反して、常識と貞節と不變を愛する性質とが勝を占める。普通の社會は永久的な自由結婚のあり得る事すら信じない程疑惧に囚はれてゐる樣であるが、之は中性者の社會には殆ど普通に行はれてゐる事で、其の不可能を信ずる者は餘り在るまい。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

古今東西を通して嫉妬は如何程論爭を惹き起した事であらう、嫉妬はどこまで自然たり本能たり通有性たりとす可きか、將又何處まで世論及所有觀念に起因して居るか、等は久しい問題である。普通の結婚に於ては世論と所有觀念から來る嫉妬は確に極めて大なる要素となつて居る、がさう云ふ嫉妬は中性者の戀愛關係に於ては現はれない、又は働かないのである。故にこの場合に於て始めて自然な本能的な嫉妬のみを觀察する事が出來るのである。無論中性者にも嫉妬は有るが、其の程度に至つては全く人に依るので、激烈なのも極めて薄弱なのも殆ど絕無なのも在るのである、故に嫉妬は隨分珍らしからぬ現象ではあるが、どんな場合でも必ず戀愛につき纒ふもので無い事が分かる。中性者には其恒久の伴侶たる相手が他人と再た親交を結んだ時平氣でゐるのもあれば、激しく反對するのもある。もし相手を所有物視する觀念とそれ故の嫉妬とを除去した曉には、通常の結婚も亦かういふ狀態に歸するであらうと思はれる。

さて醜業婦の問題であるが、中性者の中にも生來の醜業者が絕無な譯では無い。けれども賣淫はさういふ中では普通の社會に於てほど重大な地位を保つ事が出來ない、如何となれば一には法律に束縛された無理な結婚の無いがため、一には結婚が自由であり交際に制限の無い世界に於ては好機が乏しく、且競爭が出來ないからである。故に普通社會に於て交際と結婚の自由が得られゝば賣淫は非

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

常に減少し、進んでは絶滅さへするかと思はれる。

其他種々の點に於て、外的法規制度等の壓迫以外に立つ中性者の社會は眞に望ましい將來の指導者たる觀がある。しかし斯の如く自然な比較的無制限な結合を觀察した結果或結論が得らるゝのは當然であるが、併しそれにしても予は現在行はれてゐる結婚を全然打破しやうといふのではない。予は同性の戀愛が世の承認を得ず標準を立て得ざるが爲めに多大の苦悶を蒙つてゐる事を認める者である。無論窮屈な愚な法規に惱まされるより現在のまゝの方がましであるには相異ないが、尙將來は男女間の戀愛と同じく一定の標準及理想を有つ樣になるであらうとおもふ。

中性者が愛の前には名利を省みぬ事は前にも述べた、がそれと共に彼等が概して愛のためには淫慾を擲つものであるといふ事が出來る。これは常規(ノーマル)の人に到底望み得べき事ではない(少くとも今の進過の度では)。のみならず普通人の於ては單なる肉的牽引力の方が強いのではないかと疑はれる。予は中性者は尋常人よりも其の戀愛の方面に於て優秀なものであると信ずる、即ち彼等の愛情は肉的滿足よりは精神的方面が主であり、普通人のそれより遙に微妙な濃密な且同情に富むものである。(こゝに參考のため左の諸說を揭ぐ)

よき家庭に生れよき教育を受けたる中性者は完全なる理想家なり。彼に取ては物質は思想の象徴たるにすぎず、現實のものは視えざるもの、生ける表現にすぎず。

われら(中性者)は意力、世智、及、義務の觀念等に於て通常男子に劣る事あるは事實なり、されど他方感情の深さ細かさに於てわれらは遙に彼等を凌駕す。吾等は婦人を戀すること能はざるも、共に嘆き共に憂へ其の寂寥を慰愉して最も貞實なる友たることを得。婦人と中性者とは今日醜悲極まる物慾に耽溺しつゝある動物的利己的なる男子より遙に優れり。如何となれば如何に腐敗せりとも婦人及中性者は普通男子より善事を仰望する點に於て、將又其の朋友に對して純粹なる愛を捧げ得る點に於て優ればなり。

さういふ感情は凡て彼等の胸中の女性的要素から自然に流出して、性格の他の諸點と混和するのである。中性者の戀愛の性質が摯實な、眞に寛量慈仁なものである事が一旦分明となつた曉には、社會に於ける中性者の地位、及彼等の爲し得る社會事業も亦當然世人の承認を得るであらう。(完)

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

盲樂師

青山菊榮

五

盲目の子に起つた此の事件――家人の所謂――はマキシムを酷く心配させた、彼は薄々其の原因を察したゞけになほ心を傷めたのであつた、彼は是は何か心と關係があるのであらうと考へた、そこで自身の蒙を啓くために手に入る限りの生理學、心理學、教育學等の良書を取寄せて、例の熱心を以て、兒童の心の神秘な發育に關係のありさうな事は一切研究して見た。

間もなく彼は仕事に沒頭してしまつた、而して其の研究と觀察の結果として、或明確な結論を得たつまり自然はペトリックから視力は奪つたものゝ、様々の高尙な資質を與へてゐる事が知れたので

あつた。ペトリックの感覺は非常に鋭敏である。そして印象を強くはつきりと感受して、それを體得する事が出來る。自分はよし不具であつても、自分の苦しみは甥のそれを輕減する特權かも知れず、且又熱心な努力に依て盲目の子を正義の戰士とし、善良な偉大な人物とする事も出來やうか、といふ考はマキシムの心を熱しさせた。

ガリバルヂイ派は斯う獨りで云つた。

『この世の戰は劍に許り依るものでもあるまい。やがてペトリックがあれの武器——言葉と思想——とを、同胞の幸福を進めるために、又不正と暴虐とに對して弱者を庇ふ爲めに揮はぬとも限るまい、さうなつてこそ不具の老ぼれ武者の一生も無駄ではなかつたといふものだ』

河岸の丘へ散歩した後、幾日かペトリックは寢床に籠つて、いはゞ神經の激動のために苦しんでゐた。今譯の分からぬ事をつぶやいてゐるかとおもふと、すぐ又ぢつと耳を澄まして、在りもせぬ物音に聽き入つたりした、而して其の顏は不安な困惱のさまを見せてゐた。

『この子は何か分からう〳〵とするのに分からないといふ樣な風ですね』と母親は子供の熱い額に手を載せながら云つた。

思ひ沈んで眺めてゐたマキシムは肯いた。ペトリックの異樣な懊惱と失神との原因は同一である

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

ので、即ちその心には大き過ぎて、視覺の力を籍らすには同化し消化し難い印象の氾濫から來たものであるといふ彼の推察は誤らなかつた。そこで伯父の發議に依て子供は新奇な印象に徐々に接することに決められた。先づ第一に再た二重の窓框をはめたので、部屋はもとの通りになつた。すこし經つと窓は時々ほんの數分間開かれた、それから朝から晩まで開放しておかれた。次にペトリックを露臺へつれ出し、露臺から庭へ連れ出した。而してポペルキー夫人は親切に、氣長に彼の鋭敏な耳を惑はす物音の意味を説明した。

『林の蔭のあの不思議な音は羊飼ひの角笛ですよ。あれは羊を呼んでるの。ね、ほら鶫の歌や雀の囀りが聞こえるでせう。それからあの河の方の嗄れ聲もね。あれは鵠の鳥ですよ。今に夏が來るので遠い〳〵お國から來て、もとの所に巣を作つてゐる所です』

ペトリックは母親の手をとつて、小さな頭をうなづかせながら、感謝と喜悦とに顔を輝かせて、母親の説明を了解しやうと熱心に聽いてゐた。

鵠の鳥ときくと、彼は物の大きさを知る時にいつもやる通り、兩手をさし出した。

『否、鵠の鳥はもつと〳〵ずつと大きい』とマキシムは云つた。『あの鳥を家へつれて來て床におくと、頭が椅子の背より高い』

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

『大きな鳥！　だけれど雀はこれつ許りね』　ペトリックは兩方の掌を合はせむ許りにして云つた。

『あゝさう〳〵。だが大きい鳥は小鳥の樣に歌が上手ではない。しかし鵲の鳥は恐ろしい鳥でね、巢の上に片足で突立つて、あたりをぎろ〳〵睨めまはして、怒つた百姓が男どもを叱る時の樣に啀みつけるんだ、自分の聲は嗄れてがみ〳〵してゐて、おまけにみんなに聞えちまふ事なんかちつとも構はないでね』

伯父の話を聞いてゐる間、ペトリックは母親の漠然とした説明を理解しやうとする時の樣な努力も忘れて樂しさうに笑つた。それでも母親の説明はマキシムのより遙かに多く彼の心を魅した。彼が迷ひや疑ひに出會ふ毎に問をかけるのは母親に限つてゐた。斯うしてペトリックの心は少しづゝ新な印象に富んで來た。彼は識らず知らず、而も絶えず暗黑の帷帳をおしのけて、肉の眼に視えぬものを心の眼で見やうともがいて居たし、不思議なほど鋭い耳をもつてゐたので、その生れて來た神秘な世界を日増しに十分に理解して來た、しかしこの不斷の緊張は彼を年より老けて見せて、その美しい顏に、朧げな、然し深奧な悲哀の影を印したのであつた。

然しこの盲目の兒にもなほ、純な喜びや、陽氣な子供らしい愉快を感ずる折々はあるのであつた。而

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

して目には見られぬ世界の新な光景を心に見せて、嶄新な情緒を感じさせる樣な印象を得る每に、彼は至大の幸福を感じたのである。河岸に聳え立つ高い崖に連れてゆかれた時もやはり左樣であつた。彼はときめく胸を抑へて下方の深處を行く水の響動に聽き入つた、而して自ら蹴た石が崖をころがり落ちて河の中で跳ねかへつた時、急に怯えて母親に縋りついた。其の後、彼は深さといふものを崖の麓に柔らかに跳ねかゝる水の音と、河へ轉げ込む石の音として想像する樣になつた。

遠さの觀念は柔らかな調べで消えてゆく歌聲であつた。

小露西亞に珍らしからぬ雷雨が起つて、凄まじい轟きが大空に響き渡つた時、ペトリックの胸は畏怖に滿たされた、而して其の心は蒼窮の廣さと、空間の涯し無さとの宏大な觀念を形成したのであつた。

かうした風で每日何かしら覺えながら彼の心と頭とは發達して行つた。六歲にならぬうち、彼は手引きなしで自由に家の中を步きまはり、行き度い所に行き、欲しいものは雜作なく取る事が出來るやうになつた。

ペトリックを不具と知らぬ他人は、彼を盲目とは思はないで、いつも妙に遠方を見据えてゐる特に生眞面目な思慮深い子だとも思ひさうであつた。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

六

或よく晴れた夏の宵に、マキシム伯父はいつもの通り、煙の雲に包まれながら庭に腰をかけてゐた父親は例に依て留守であつた。家の内外は寂然としてゐた。ペトリツクはもう半時餘りも床の中にゐる。が、睡いくせに眠らずにゐた。この幾晩か彼は靜かな黃昏時になると異樣な感じを經驗するのである。彼は何とも云はれぬよい心持で寢入るのであるが、翌朝目をさますとそれが何故であつたか少しも分らない。諸感が甘い夢現の境へ柔らかにあやされて行つて、在るか無しの微風の中の楊の葉摺れや遠くに吠える村里の犬の聲や、林の鶯の顫へる歌や、牧場の家畜の單調な鈴の音などが段々幽かになつてゆくと、急にさうしたまち〳〵の物音が一つに溶け合つて、天上の夢を伴ひながら徐かに窓の中へ漂ふて來て、翩々と床の上で舞ふ樣な氣がするのである。

明け方に目をさますと彼は非常に昂奮した樣子で、何より先にあのよく融和した神秘な夜の音の事を思つた。

『あれはなあに？　昨夜窓からはいつて來たあれはなあに？　母さん』と或朝彼は熱心に母親に聞いた。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

ボペルスキー夫人はひどく當惑して、分らないと答へる外無かつた。それが何であつたか夫人には全く見當がつかなかつた。が、夜になると夫人はペトリックが夢に惱まされるものと思つたので、自分で寢せ付けて、よく寢入つたのを見屆けてから、其の頭の上に恭々しく十字架を切つて出て行つたしかし朝になるとペトリックは前夜のことを熱心に聞いた。

『それは〱心持が好いの、母さん。でもあれは一體なあに？　ねえ、あれは何だか聞かせて頂戴』

母親は其の神秘の片端をすら說き明かす事が出來ないので、やはり夢を見てゐるに違ひ無いとしか答へられなかつた。が、翌晩はもう少し長くペトリックの所に居やうと決心した。それで編物をもつて、ペトリックの平らな寢息でよく寢入つたと思はれる頃まで、床の傍に坐つてゐた。が何の異狀も見えないので、夫人がそつと部屋を拔け出やうとすると、子供の聲でそつと我名をつぶやくのが聞こえた。

『母さん、そこにいらつしやるの？』

『えゝ』

『彼方へ行つて頂戴、あれは母さんを恐がつてゐますよ、もう私が眠りかけてゐたのに來ないの』

ボペルスキー夫人はこれで愈々不思議の感を强めた。何か異變があるらしく思はれる。ペトリック

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

は分かりの可い兒で幻覺や錯覺などに惱まされる事は無かつた――眼の錯覺などは無論在る筈もない。而も今、現に彼は夢を現實として、それを人間にさへ看做してゐる。彼男は來ない！　一體何の事であらう！　次第に心もとなさを增しながら、夫人は子供に接吻して出て行つた、がその足で庭へ出て、子供の部屋のあけ放した窓の近くで樣子を見てゐた。

そこへ出るこ程なく謎は讀めた。柔らかな南風は低い優しい、殆ご聞きされぬ程の笛の音を家の方へ漂はせて來た。この素朴な階律こそ、夢と現の境にゐるペトリックの敏い耳に達して、さしも彼を悅ばせさしも數多の樂しい夢を見せたのであつた、

悲愴な小露西亞風の「森の調べ」に暫く耳を貸した後、ボペルスキー夫人はマキシムの所へ行つた。『トキムはほんとによく吹きますね』と兄に向つて云つた、『あのまあ野暮くさい馬丁にあんなに優しい風情があらうとは思ひも寄らない！』

實際トキムは笛もよく吹き、提琴もよく彈いた。以前彼が陽氣な曲を奏した時は、年寄か不具でない限り、ぢつとして聞いてなぞゐられたものでは無く、誰も彼も我知らずおごり出した程であつた。しかしトキムは近所の別莊の女中のメリーに戀して以來、陽氣な提琴を憂はしげな橫笛に代へてしまつた、多分此の不實な女が彼を自分の主人の僕に見代へたからでもあらう。これ以來、提琴は馬

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

小屋の釘に掛かつたまゝ、見向きもされ無かつた。その絃が一筋一筋言ひ知れぬ程傷ましい臨終の號泣をたてゝ切れて行つた時、馬達は思ひ遣る樣に聲を合はせて嘶いて、いぶかしげに失戀の馬丁の方へ頭を回らしたのであつた。

トキムは最初の笛をヂプシイの鑄掛屋から買つた。それは荒削りの木の筒にいくらも違はぬ代物であつた。その笛はトキムがいくらやつて見ても感情に反應させる事も出來ず、音樂的生命を吵しも吹き込む事が出來ない程、無細工なものであつた。彼は同じ造らへの笛を一ダースも買つた。がどれもこれも似た樣なもので、一番良いのでさへ思ふ樣な調子は出なかつた。何れも歌ふやうにと思ふとヒユーと鳴つたり、哀哭する所をキリ〳〵と鋭く響いたり、吐息をつく代りに嚀つたりして、まるで調子が滅茶々々で始末に終へ無かつた。

小露西亞の戀する人の感情にヂプシイの笛の到底應和し得ぬ事は明瞭であつた。

そこでトキムは自分で一つ笛を作らうと思ひ立つた。彼はその爲に幾日も野原や沼をさまよつて、柳の繁みに來かゝる毎に仔細に檢分して、時々太い枝を切り取つた。しかしこれぞとおもふのは見當らなかつた。絕望し切つて愈々思ひ切らうとする時、彼は丁度河端へ出た、其處の水はその胸に漂ふ睡蓮の頭さへ搖るがぬ樣に見える程靜かであつた。この寂しい沼の上に物思はしげに頭をうなだれ

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

てゐる栁の樹立は風を防ぐ樣になつてゐた。トキムは茨をかき分けて進んだ。やゝ暫く無言で汀を眺め入つてゐるうちに、その眼は輝いてひそめてゐた眉は伸びて來た、こゝでこそ久しく尋ねあぐんだものは見つかるに相異ない、といふ考がふと起つて來たのである。見まはすとつい傍にまるで註文のまゝに生へた樣な、思ふ通りの莖が見當つた。それは圓くて滑かで眞直で、强さも申分なく、大さも手頃で、美しい銀色の皮に包まれてゐて、磨かれた大理石の樣に一點の瑕も無かつた。

『斯う來なくちや』と、トキムは物になるのもあらうかと取つておいた枝の束を水の中へ投げ込みながらつぶやいた、『かう來なくちや』

それから彼は疊み小刀で選んだ枝を親木から切り放して家へ持つて歸つた。それが乾き切るとすぐ心を燒け火箸で燒きとつて、その筒に圓い孔を六ッあけた。七つ目のは楕圓形にしなければならないので小刀で明けた、これが濟むと、筒の一方の口に木の栓をして、薄いレースの小切れに載せて、丸一週間戶外にさらしておいた。其の間それは日に温められたり、風に吹かれたりしてゐた。次に彼は小刀でその恰好をこしらへて、砂紙と目のあらい毛織の小切れとで磨いた。笛の上の方は圓く、中程から下は削つてすべ〳〵した方正な面にして、その上に小さな燒いた針金でいろ〳〵の複雜な唐草模樣を燒きつけた。

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

笛は出來上がつた。

トキムは急な調子を二つ三つ吹いて見た。而して歡極まつて聲を擧げるとそのまゝ、枕の下へ樂器をかくしてしまつた。彼は最初の獨奏を落ちつかぬ晝中には遣りたくないと思つたのである。が、夜になつて馬に飼秣をやつて寢せつけてしまひ、あたりが寂靜とすると、甘いうら哀しい小露西亞風の調べが一時間の餘も馬小屋に響き渡つた。

トキムは笛が氣に入つた所では無い、全く有頂天になつてしまつた。彼にはそれが自分の片われである樣な氣がした。彼はそれを思ふまゝに吹きこなす事が出來た。その音樂は彼の柔さしい温かな心から直に湧き出たものであつた。彼の感情のあらゆる隈、あらゆる悲しみの相がこの神秘な笛に吹き込まれて、徐々と翼を擴げて、聽き入つてゐる夜のなかを高らかに翔るのであつた。

トキムは笛に戀してしまつた。而して共々樂しい蜜月を送つた。彼は晝間はまめ〳〵しく働いた。折々、あの慘酷な別嬪の棲んでゐる家の方を見るといつも胸の古傷が痛んだ。が、夜になると彼は音樂の悦樂に我を忘れてしまひ、黑眼のメリーの思ひ出も虛無に溶け去つて、跡にたゞ朧げな憧憬をとゞめる許りであつた、その憧憬は心のまゝになる笛から吹き出す彼の歌に、人を魅する憂愁を添へるのであつた。

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

或晩、トキムが始めて新しい樂器を試めしてから程無い頃、彼は馬小屋の隅の固い寢床に寢ころんだまゝ、音樂の歡喜に醉ひ浸つて、世上の事を一切忘れて居た。ひとり不實な戀人のみならず、彼は自らの存在をすら忘れ果てゝゐたのであつた。が、不意に彼は笛を吹き罷めて身の毛をよだてゝ無我夢中ではね起きた。

見えぬ指がその顏をさすり、手にさわり、それから輕く笛を撫でおろしたのであつた。

幽靈!

『やつ!』と彼は叫んだ。『全體惡魔か天使か』

丁度この時、ちら〳〵した月光があけ放した戶口から射し込んで、トキムの床の傍に立つて、その方へ手をさし出してゐる盲目の兒を照らし出した。

これから一時間ほど後に、ポペルスキー夫人は例のとほりペトリックの寢てゐる樣子を見て、其の頭の上に十字架をかくつもりで寢室に行つた。

ペトリックは居ない! 不意の恐れに夫人は息も止まりさうだつた。が、やがて彼の往つてゐさうな所を思ひ出したので、その部屋を出、家を出て厩の方へそつと步いて行つた。

其間にまた音樂は始まつた。而してトキムがふと眼を擧げて、戶口に「奥方」のお立ちなのを見出し

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

て度を失つてしまつた時まで、ずつと續いてゐた。「奥方」は音樂に聞き惚れて、且は又トキムの外套に包まれたまゝ、その寢床に坐つて朗々たる笛の音に恍然と聽き入つてゐる我子を見守つて、久しくそこに立つて居たらしかつた。

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

甘き呪

八木さわ子

君よさなうたひそ
あはれ我かくもかなしく
なげきつゝ默（もだ）せるものを
君よなど
かくはうれひもなく
はなやかに

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

うたひたまへる。

ひなげしは
白くな咲きそ
にぢみたる血汐の色の
紅に咲きもにほへ
初夏のかろきつかれに
うなだれて咲きもにほへ

けふの日も夕となれば
わが庭のいづこは知らず
ほそ〴〵と虫はなくらむ

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

夜をこめて音になげくらむ
わが庭のいづこはしらず
今日の日も夕となれば。

かすかにも打ちふるへ打ち顫へ
おのゝくはわが魂ぞかし。

かくも我
ゆたかなる君が胸に
わが額をうづめ
かくも君
あたゝかき手に

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

我が胸をいだけど
あはれ我
われはなほ心おのゝき
ひたすらにふるへてやまず。

かすかにも打ち顫へ打ち顫へ
おのゝくはわが魂ぞかし。

ゆくりなく君と見(み)出(いで)し
うす青き無花果の實よ
夕暮のうすらあかりに
たゞ一つ君とみいでゝ

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

葉がくれのいちゞくの實よ。
あはれ君は
いや聖き
神のとばりふかく
ひめられし花ぞかし。

そはまこと
いや聖き
神のものなれば
そをふれなむよすがだになし。

今日もまた

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

色赤く甘きいちごは
葉かげによびぬ。

人よ
わが實をばつまずや
われは甘くいや甘く
こひのごと甘し。

人よ
誰がわれをほりする
わが甘き實のこかげに
煉獄の火は燃えたり。

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

人よ
わが實をばつめかし
我はそを求めん者に
永遠の火をもあたへむ。

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

墺太利の貴婦人

かみちか・いち

青い赤いくさ木の命はかへつて來た、野でも山でも見るがいゝ、道芝の間々には名もない草花迄いのちをしつかりとつかんだ幸福に輝いて咲いて居る、木と木との梢は青い力を一ぱいにもつて、幸(しあはせ)にそよいで居る。かうした頃は、ゆき過ぎたこの頃の思ひ出が季節とこんがらかつて思ひ出せる時である。暗い五月雨のはれ間には日光がかゞやく樣に、物わびしい生きる爭にさいなまれつゞける毎日の間には甘い若い追憶が、輝き出す時である。そしてその時丈私は自然と適應して居る、その時丈私も

初夏を背景にした幸福な自然の一人の女主人である。
これはさうした稲妻のやうに突然に輝いて來て、そしてその様に瞬間を完全に支配して去るこの季節の追憶の中の、小さな〳〵部分を分けられたエピソードの一の記錄である。

私はその頃はF夫人と云ふ米國人のうちに同居して居つたのです。麹町のある閑靜な住居で、そこらには一群の白人が住つて居たのでしたが、F夫人丈は別に離れて私と二人、日本人の家主の二階家のはなれに住つて居りました。私はやつと十八位であつたでせう。夫人は卅四五の女ざかりの人で、人種と云へば夫人は白人私は黃人、顏色のちがふより以上に二人の凡の生活がちがつて居たのでしたけれど、それでも私共は何の隔もなく愛し合つて居りました、そしてそこに居た白人の群にも私はなくてならないお景物の様にかあいがられて、どんな時にも私丈は日本人でも疎外されなかつたのです。

この人達は可成に放縱な生活をして居りましたから、日曜日になると一二の人をのけたあとはたのしみにしていろんなところに遊びに出掛けました。午前丈でも故郷なみに敎會で暮らさうとする

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

人は少なかすつたのです。そして宗教學校にそだてられた日本人の私は却つて少しの矛盾も感じないで毎日曜日未だ夫人が寢てるうちにおきて、バイブルをもつて神田の教會に出かけたものでした。

前の廣場に植ゑならべてあつた櫻が、雨日には欝陶しいほど繁つてたと思ひますから、花が散つて若葉の頃でゝもあつたでせう、何も考へることのなかつた幸福な私は、ある日曜日の朝禮拜をすましてかへつて參りました。住居の近くに來ますと反對の方からきた人力車がピタッと止つて、黑いかゝさうな布の髮の美事な洋服すがたの上品な美しい貴婦人がそれから下りました。そして私が歩をゆづゝて一寸立ちどまりますとかあいらしい會釋をしてくれて裏の家主に入つて行きました、F夫人と同じくらいな年配で訪問客にはつい見かけなかつた人ですし、私は又新しいとまり客なのか知らと考へて門を入つて行きました、家主のうちでは一方に客もとめて居りましたから。

あの美しい人が新しいとまり客ならいゝ、私は熱心にそれをのぞんで居りました。そしたら夫人のところにもあそびにも來る樣になるであらうし、そして私もかあいがつてもらへるだらうし、そしたら初めての人ならうらの晋さんに代つてどこにでも見物につれて行つてあげ樣、そんなことを考へ〳〵着物をかへて居りますと私共の戸のベルがなるのです。いそいで出て見ますと瑞西人のGが最前の人をつれて立つて居たのでした。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

「お早う、何か御用ですか」
と云ふと、この方が夫人を尋ねて來ておいでになる、と云つて三田邊に住んで居る夫人の心やすい印度人のB氏の紹介の名刺と、もう一枚のにはその貴婦人の名がV伯爵夫人と書いてあるのを渡しました。すぐに夫人が下りて來て三人二階に上りましたが五分もたつと廊下を歩く靴音がしますから、いそいでドアをあけて待つてるとミスGが先になつて下りて參りました。そして夫人が、私のかあいゝ日本の娘と云つて私を紹介しますと、伯爵夫人はムッチリとふとつた手を伸ばして握手してくれました。そして私の髮をなでゝ何つて可愛らしい青い顏の娘だらうと云つて居りました、幼い時からあいの兒と間違はれた位にエキゾチックな表情をもつて居るのが、何時も外國人にフアミリアルな感じをおこさせると見えます。

「ハバイ宗と云ふ宗敎を知つて居るか」

夫人はその人の車を送りだすと私の勉强室に入つて來て、
アームチエアをゆりながら聞くのです。

「知りません、どんな敎でございますか」

「私も知らない、それがあの墺地利の伯爵夫人が世界に傳道すると云つて、あゝしてまわつて居る

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

宗教の名で、何でもその宗教はマホメット教から出たもので、伯爵夫人はそれを宣傳せねばならぬと云ふ神旨をうけたので、日本でも天皇に謁見をねがふて、それの布教をみとめてもらふのだと云つて居た」といふことでした。

「日本の天皇に謁見をねがふことを、おとなりの方に傘を借りることの様に容易に思つて居る」夫人はさう云つて笑つて居りました。

裏のうちでは急にせわしくなつた様でした、おかみさんは袖をまくしあげた女中を相手に、花模様の美しい緞絨をたゝいて此の室に入れたり、主人は職人をつれて來て壁や天井の紙のやぶれたところをつくろはせたり、こはれた硝子をとりかへたりして居りました。ボーイのする様な仕事を手傳つて居る、びつこの岡さんはいく度も〳〵出たり入つたりして居りましたが、その騷ぎも夕方になるとすんで、此の室には珍らしく華やかに電燈がともつて、窓際でおかみさんが白い大輪な薔薇を、青いうつはにもつて居るのなどが私の寢室から見えて居りました。

暫時すると伯爵夫人は迎に行つた晋さんと二人、車にのつて、帝國ホテルから引き移つて參りました。大形のトランクがいくつも〳〵此の室には引き上げられました。

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

ベルがなる、廊下を走る足音がバタ〳〵と聞える、夕食後の白人達は、ブラ〳〵と外を散歩しながらヒソ〳〵と、新來の客人の噂をしてソッと此の室の窓を眺めて居りましたのが、何となく異つた期待のある心持をうかせたのでした。

私はドキ〳〵と頻にうれしい氣分がして、その晩はソワ〳〵と暮らして居りました、晝間握られた右の手からは異様な幸福がにぢみ出る様な氣持がしますのです。そして床に入る前いつもの様に夫人の寝室に入つて夜の挨拶をして來たあと、寝臺にのぼつて枕もとの窓硝子をあけて、伯爵夫人にも挨拶を送つてやすみました。

「カウンテス、おやすみなさいまし」

その頃のある晩私はうつくしい夢を見て居りました。私は美しい白人の娘になつて、きれいな着物をきて、伯爵夫人と二人、馬車で眺めのいゝ崖道を馳つて居りました、左手には大きな川がうね〳〵と流れて、右手の青葉の間からは赤い建物の城跡が見えて居りました。どこでございませうと尋ねると、Vと云つて伯爵夫人の舊領地だと云ふのでございます。Vといふのは私がその頃よんで居つた獨逸のある聯邦の王女の美しい戀物語で私が想像して居つたところでございます。私は直に不仕合な

戀に捕はれた王女のことを思ひ出しました。教育のある美しい若い公子を顧みもせず、妻子のある五十に近い齢の臣下の伯爵を戀ひわたる王女の心持がしみじみと私の身うちにしみ込んできて、書物でよんだ不倫なやるせない戀心地がしみじみとした涙を誘ふ、とりとめのないそして美しいゆめでございました。

あけの朝は、いつもの通に學校に出る前に部屋の掃洒をして居りますと、學校に出がけの丈の高い晋さんが此の小窓から顔をさし出しました。

「伯爵夫人は變ですせ、日本人が造らへた料理はきたないと云つて、料理には手もつけずに果物ばかり喰べて居るんですよ、今朝も珈琲と牛乳をとつた丈で、果物をたべて居るのだと云ひますよ、そしてね、その果物や飲む水迄ちやんとあのトランクの中の瓶に入れてどこからかもつて來てるんですよ、癪にさわりますわね」

そんな話を聞かしておいて、出かけて行きました。

私は直にその話をF夫人に聞かせ度くて、未だ寢衣のまゝ朝食をして居るところに行きました。話をすると、馬鹿々々しいと云つた樣な笑ひ方をして、それは何か多分宗教の方から來た迷信の結果だ

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

らうと解釋をつけて居りました。

その日の夕方七時頃、印度人のＢ氏が、そのどす黑い顏を夕闇に沈ませて案內を乞ひました。二階に上つて行つてから暫時しますと夫人が私の名を呼びます。行つて見ますとＢ氏が伯爵夫人に逢ひ度と仰有る、今面會がお出來になるか聞いて來ておあげと云ふのです。いそいで前垂をはづして足袋をはいて、此の部屋をノックしますと丸味のある美しい聲が「おはいり」答えます、入つて行くと伯爵夫人は金色の多いちゞれ毛を長くあんで、頭中にまきつけたばかりで、白い紗の袖の廣い上衣をはをつて、東の窓下のソファに腰を下ろして頻に團扇を使つて居りました、妙にいゝきれのする、頭を重くする風の吹いてる晩でしたから、日本の空氣は濃過ぎる、頭痛がしてならぬといふのです、そしてＢ氏には十分ほどしてお目にかゝる、そしてあなたが案內して上げてくれゝばいゝと云ふので、私は承諾してかへつて參りました。

Ｂ氏は髮も鬚も眞黑な、銅色の顏に目ばかりじろ〳〵とした肥つた紳士でした、二階に上る階段を苦にしてヨタ〳〵と後ろからは見て居られないほど難義して昇つてゆきました。

伯爵夫人は美しいイーブニングドレスに着替えて、フックラした腕には金の腕輪をはめて、髮にも

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

光るピンをつけて神々しい様に氣高く見えました。ムッチリと大きな氣持のいゝ腕を誘惑する様に出してB氏に握手して居りました。

「B氏はマホメット教だから、伯爵夫人の傳道にも同情があるやうだ」

と歸つてくるとF夫人は私にさう申しました。B氏は語學校の印度語の教授ですけれど、マホメット教の傳道に來て居る人で、その教の事業には凡て關係のある人でした、伯爵夫人は比律賓にある同志の人からの紹介をもつて來て居たと云ふことです。

「日本ではキリスト教でさへもう此の上のはたらきは出來ぬのに、どうしてマホメット教やハバイ教を布教することが出來様。それに伯爵夫人は妙なところが有る様だ、もしかすると神の國を建設しやうなどゝ云ふ形式的な宗教的熱心に陷つて終つた、妄想狂かも知れない、少し變な樣だ」

などゝ云つて居りました。

宗教的熱心が時としてそんな人を造らへるのはほんとうの樣です、私は大變佛教の盛んなところに生れて、無智な人々の只管信仰を見て育ち、敬虔な母の宗教に敎へられて來てをりましたから、宗教上の凡の熱心を尊敬することは知つて居りました。

「それでは教をきゝに參りませうか」

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

こと云ひますと、行つてごらん、乾度大よろこびで傳道をするから、と夫人はからかふ様に云ふのです、餘りに賢く理智の目がひらいたこの人には伯爵夫人に對しての眞面目な同情はないと見えました、私は夫人を愛して居りましたし、そしてそのどこ迄も現實的な生き方に敬意をはらつてはをりましたけれど、伯爵夫人の爲には物足りない悲しさがこの人によつて起されたのでした。それで話を聞きに行つて見度い、そんなに思ふ心は熱心だつたのですけれど、夫人の手前物好に行つて人を弄ぶ様にも自分が顧みられて又行きにくゝなるのです。

私は晝間は學校に通ふて居たものですから、それからは伯爵夫人をあまり見かけませんでした。此の室の窓丈は毎夜明るかつたのです。でもF夫人は毎日出かけて行く様だと云つて居りました、時々は晋さんも何かのたよりをきかせてくれました。大使館にも行つた、B氏と二人でO伯爵やS男爵も訪問した、文部省にも行くらしいなどゝ云ふことでした。謁見を願ふ運動をして居るのであらうか、大きな集會でも仕度いのであらうかと私は一人で考へて居りました。

一週間はかうして直に立ちました。

その朝は四五日つゞいた梅雨がはれて、にはかに夏らしい日和になつた日でした、伯爵夫人は私が

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

初めて見かけた時のなりで私共のドアに立つて居りました。

「明後日のエムプレスで支那に立つ、今日のうちに乘り込むつもり」

と取次に出た私の手をとつて握つて云ふのでした。新しい巴里型の黒つぽい小形な帽子からあまつてはみ出た捲き毛を、なぶる樣に夏の風が顏に吹きつけて居りました。

「幸運が可愛い日本の娘をまつてゐるやうに」

「有りがたう伯爵夫人、そしてあなたもおたつしやでお仕合せなやうに」

あの九段の馬場をめぐる櫻の間に見えかくれて行く車をF夫人と二人見送つた時は、あなたの敎が眞面目な多くの信者を得て、あなたのかうした苦しい運動が徒爾なことに終りません樣に、そしてあなたが可愛いと仰有つた日本の娘を何時迄もお忘れにならぬ樣にと、私は心の中で子供らしい祝福を見しらぬ國の放浪者に送つて居たのでした。

伯爵夫人の運動がどんなものであつたか、そしてどんな結果になつて急に支那に立つて終つたのか、ミスGやB氏やF夫人の間にはわかつて居たのでせうが、私の聞くやうなところではその話はとうと一度も出ませんでした、燃える樣な一人の宗敎的熱心も、冷かな功利心に覺めた國民の少數の人々の注意を起すには力が足りなかつたのか、或は伯爵夫人をとりまいた周圍の事情が、早くもこの國

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

での運動を阻んだものであらうと、私は一人で考へて居た丈でした。

その後、伯爵夫人の消息は杳として聞えませんでした、氣の多い白人の群の間にも一週間もたつと噂もなくなつて終ふたのでした。それでも私は妙にこの人の記憶をながくもつてくらして居りました、美しい貴族らしい顔と様子、さも富有らしくのび〳〵とふとつた腕、夢に見た城と廣い領地、不倫なそして世にも稀な美しい悲しい戀、血をながす宗教的な熱心が美しくからみ合つて、その追憶を飾つてるのでした。

その後私はハバイ宗について稍明かにする機會を得た。これはホハメッドが起つた波斯で矢張り起つた宗教で、回敎の世界同胞主義を一層つよく主張し、同時にその軍備的團結力を平和的團結力と改めたもので、既に亡國とならうとして居る波斯に於ての只一の政治的復活を囑望されて居る團體であるこの敎の具體的方面の特長は死をおそれないと云ふこと、回敎と同じ様に他敎徒の調理した食物をとらぬと云ふことで従つて英露の官憲のどんな迫害もハバイヅムの勢力をそぐことは出來ないのである、出來ないよりは他の宗教迫害の場合と同じく、却つてその信者の團結力をかたくするのである。數年前露西亞が波斯の北部で盛に敎徒を壓迫して、團體を散じたと云ふことであつた、その

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

時に散らされた教徒のうちある一部の同志のものが結束して、亞西亞人間に新活動を起し、波斯の復興をはかつたと云ふことである。私はその活動がどんなに終つたかは未だ聞かない、然し伯爵夫人が日本に渡來して一部著名な人々の間に何を說いたか、そしてそれがどんなにすげなく拒絕されたかは、複雜な國際關係、殊に日本と英國及露國との關係によつて押しはかられる樣な氣がする。要するに伯爵夫人達の政治的運動は、英露に特別な出來事が起つて波斯に於ての壓迫の手がゆるめられるか、印度、土耳古、西部支那、埃及などに於ての回教徒並にハバイ教徒が何等かの自覺を起すに到る迄は實現されることは出來まい。

支那に行つた伯爵夫人は、その所信の爲には恐らくその同志の多く住む甘肅や河南や雲南などの深い內地に入らねばならなかつたであらう、そこでどんな運命がこの人を待つて居たか、私共には想像も出來ない、然し波斯の狀態があのまゝでつゞいて居るかぎりは、この愛すべき貴婦人の放浪生活もつゞいてゐるであらうと、私は思つて居る。こんなとりとめのない思ひ出もこれが幼い昔の事であるので詩味を含んで居て淚が出るほどなつかしいうれしいものである、そして、それと共に又近頃の生活がそれほど暗くてみぢめだと云ふことも證明してゐるのである。

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

動搖

（承前）

菅原初子

Mに別れた翌日美津は小さい手下げ一つ持つて夜の汽車で東の旅へ立つた。

驀地に暗を衝く汽車は轟と鳴り、轟と走る。

うとうとした眠より醒めたとき、ふと顏を擧げて見ると、汽車は明けに近い天地の間を馳せてゐた。

美津は既に東京間近く迫つたことを知つた。

夜と晝との境の幕を衝いて進む鐵車の一轉毎に東京が近きつゝあるを思ふて甚だ快かつた。美津は袂時計を見た着京はも早や一時の裡に迫つてゐた。

袂時計が六時を指すとき百哩の長き車は上野の停車場に這入つた。美津は多くの旅客の群に交つてプラットホームを改札口の方へ歩いた。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

そこには豫め知せてあつたMとYとが待つてゐた。三人は思はず手をとつて喜んだ。
『でもよく來られたのね、かう都合よくはゆかないだらうと思つてた』
『なあに――來やうと思ひ立つたんだからね、どうにでもして來たのさ』
『疲れたらうね』
『さうでもない』
『まあよかつた、よかつた』
學校時代に木綿のゴツゴツで平氣だつた、螢からを以て鳴つてたYがけふはセルのコートを着込んで『いゝでしよう』わざと袖引張つて見せたその態度が美津には可愛く、可笑かつた。Yはどこへ行くにも決してスケツチブツクを携へることを忘れなかつた。けふもこゝで之丈したと言つて、鉛筆の達者なスケツチを見せた。
化粧室から出た三人はすぐ廣小路の方へ歩き出した。公園前の廣場へきたときYは
『私は之から歸らなくちやいけない、………學校があるんだから、………午後にはきつと待つて居る。それ迄ふたりで文展へ行つていらつしやい』
Yは電車で本郷の方へ去つた。

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

九時まではまだ時間がある。ふたりは近所の世界へ這入つた。
注文の來る間Mはこんな話をした。
『××驛で可笑なことがあつたの――私家出の女と間違へられちやつた』
『へえ……どうして』
『××驛で乘替への上野行を待つてたでしよう、とね、そこへ驛夫がきて、あなたは××驛からお出でになつたんじやありませんかつて尋ねるんで、えゝと答へると じや石田勝さんとおつしやる方ではありませんかつて妙なことを言ふの、さうじやないと答へると暫らくして今度はお巡さんがきて前と同じことを尋ねるので、姓名を言つて、××驛から來たんだが實はA市からきたんで××驛には用事のために立寄つたので之から東京へ行くのですと、眞面目にほんとうのことを言ふと、實は××市から電報がきて、姓名は石田勝、年は二十位で、年よりは少し若く見える女が××市から驅落したさうで保護を頼む電報がきたので――實はあなたが××の方面からいらしたのと、年が似寄つてゐたんで一寸お尋したわけですつて――何んだか莫迦々々しくつて――あたりの人が私をじろ〳〵見るんだもの、いやになつたの、――おかしいじやないの、私二十と見られてよ』
かう言つてMは笑つた。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

『何かおごつたらよからう』
と美津も笑つた。
『××の街にも隨分突飛な女が居るのね』
『どこだつて居るだらう』
二階の窓から見ると、アーチが出來たり、紅白の柱や、各國の國旗が澄み切つた秋の空一ぱいに飜つて、景氣をつけてゐる。
Mは思出したやうに、
『けふは天長の祝賀の日だつたのね』
『妙なときに來合せたもんだね』
『何が……』
『何がつて、……』
『あゝそれから一昨日Kさんに會つてよ』
『行つたの』
『お宅へは行かなかつたけれども、本郷通りの本屋で會つたの、Kさんはあなたを非常に待つてい

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

らつしやるの』

美津は勘定を拂つてそこを出た。

僅か二日許りの日で凡ての作品をみることは不可能であることを思つて、又そんな必要もないと考へた美津は、注意すべき作品丈に眼をつけて跡はとつとと進んでゆく。

『もう少し丁寧に見なくちやいけない』

と後からきたMが注意した。

幸ひ、まだ朝が早いので、只少數の人々が撒水したたゝきの上を歩く草履の音の外、うるさく神經をかき交せる雜音もしないので美津は甚だ快よく、しんみりと落付いて見ることが出來た。久しい間吸ひ得なかつた室の空氣、堂一ぱいに漂ふ藝術の香ひ、美津はうつとりと眺め入つた。

心持疲れてベンチに寄つて居るとMがきて

『いゝですね、まあどうでしよう、あの色の調子、いゝですね。』

醉つたやうな氣分になつて、會場を出たふたりは割合に靜かな處を撰つて歩いた。

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

晩に近い秋乍らなほ眞蒼に茂つた杉の樹を見上げたとき、室内の空氣から、急に外光に接したその變化が快い感じに眼を刺戟した。

心持ち水氣を含んだ地面に扇形の黄金の箔が一ぱい散つてゐる——あたりに公孫樹らしいのは見えないけれども。

血紅色した落葉が面白いやうに足下に轉がつてくる。美津はそれをぼんやり眺めてゐた。

『一寸、美津さん、私の代筆して下さいね、——まだ着いたぎり出さないから。』

『出さないつてどこに』

『A市の學校によ、——随分呑氣でしよう』

『まあ、驚いた』

『私ね東京に行くとはがき一枚かくのも臆劫になるの』

『だつてぶじ着いた位は言へるでしよう』

『言へないこともないけれど』

『相變らず度量がいゝですね』

『だからあなたに頼んでるじやありませんか——なあに、文句は今私が言ふから、あなたはその通

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

り書いて下さればいゝのだから――まあ、いゝからそこへお掛けなさいね』
『へえかけました』
美津は遂々萬年筆でMの代筆をした、ついでに自分のU市にも出した。
『これからどこへ行きます』
『別に行くところはないけれど――』
『じやいゝでしよう、動物園に行つたつて』
『戯談じやない、私は今し方着いた許りだのに、さうのんびりと獣のにほひも嗅いでは居られない』
『だつて別段どこへも行くやうなところはないと言つたんじやありませんか』
『だけれど何だか――』
『何だか行きたくないの、じやどこかへ行きたいところがあるでしよう』
『えゝ、下谷のKさんとこへ行きたいやうな氣がして、――一所に之れから、いつてくれませんか』
『Kさんとこへは Y さんも一所に行くやうなことを Y さんが言つてゝよ、だから今は私の言ふことを聞いてゝいゝでしよう』
何とか彼とか言つてMはとうとう動物園に連れ込んだ。

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

それから電車で本郷のYのところへ行つた。

Yは待つてたと言はんばかりに二人を迎へた。そして二言三言の戯談の後、Kさんが俥で美津を尋ねてきたといふことを話した。そして手紙もきて居るといつてKからの速達を渡してくれた。

手紙は原稿紙にペンでかいてある。

あなたの上京をよろこばしく思ふ。

けさおきがけに、あなたからのハガキを見た。もうかれこれ八時だつたので心もとなく思つたがとにかくYさんに聞き合せたらやつばりもう着いた跡。今上野に出掛けたとのこと。多分文展だらうと思つた。

私はあなたに會いたい。あなたを恨んでゐる。私はずぼらだがあなたをいつも考へてゐる。自分じや仲よしのつもりぐらゐで考へてゐる。それに何故電報をくれなかつたんだと勝手ながらあなたを恨んでゐる。

けふ十時にとに角、學校に戻つてくるさうだがおひる頃から出掛けないか。一晩位、夜の東京を歩いて見てはどうだ。

あすの夜たつとか言つたさうだ、それじやあんまり臆病なわけ、うんと勇氣を出してみちやどう

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

だ。そしてあすの晩私と一所に『夜の宿』をみに行かないか。久しぶりで帝劇をのぞくのも一興だらうに。

そしてあす一晩私の家に泊つてほしい。それが出來なけりや今夜一泊必ずしてほしい――あんまりむごいことは聞せても下さるな。私はあなたの上京を久しい間、待ち佗びて居た。

芝居見るのがいやならうんと話して明さうじやないか。どちらにしてもあなたのよい返事が待たれる。文展に直ぐにも出かけて物色して見やうかと思つたが、あなたの邪魔するのも惡いとわざと遠慮して居る。

けふはそこの紀念日とか、たいさうもない余興があるさうだね。

おひるから出て來ないか。義理でそこに居なくともよいと私は思ふ。

とにかく午後一時迄に、そこに私は出かけてみる――よければ逢つてほしい。

Yちやんによろしく傳へてほし。

Mさんにも。さよなら。

『嬉しい、嬉しい今夜は久しぶりで實に久しぶりで、うんと話しもしよう、唄もうたはうよ、あんま

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

り嬉しいので何を話していゝやらさつぱり解らない、ア、愉快だ、愉快だ」
Yはしきりによろこんだ。
Kの手紙を讀んで居た美津は直ぐにも行かうと言ひ出した。
するとYは、
「けふは例の紀念日で隨分振つた餘興がある帝劇から馬なんか借り込んで居る、きつといゝのがあるから一つ位見ていつてもよからう」
と止めた。
「まあ、美津さん丈、先に行つていらつしやい、きつと何か話があるのよ」
とMは何か意味のあるらしいやうなことを言つた。
「じや先にいつてるからきつと來るんだらうね」
「えゝきつと行くから」
「間違つちやいけない」
美津が××町で電車を降りたときには向ふから來る人の顔がしかと見定め難いまでに夕陽の金線

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

はまばゆく亂射してゐた。

美津はこの間、或る雜誌で NAMAKEMONO と題するKの文章を讀んだ。その一節に『NAMAKEMONO の新らしい家の天井から蜘蛛の糸がさがる』とあつた句を想ひ出した。

Kが新らしい家に引越してから未だ一度もその家に訪ねなかつた美津は、その街に這入つてこの新らしい家を見たとき、前の句を想ひ出して之だなと直覺的に思つた。

二階の手摺には繪絹を張つた枠の幾枚かゝ立てかけてあつた。

奥からしめやかに彈く琴の音が、靜かな町丈によく聞える。

案内を乞ふとKは二階から降りてきた。そして梯子の中途から『二階へお上り』と大きな聲で呼んだ。

Kは自分の立場やら、これからの希望や、仕事の計畫を話した。

美津はKの話を聞いてゐる内にKが羨しくなつた。その生活が羨しくなつた。一直線に自分の仕事に突き進み得るKの上が羨しかつた。又、若いながらも既に生活の音色を出してゐるKが賴もしくあつた。全身の血を沸かして自己の仕事に向つて緊張してゐるKが賴もしかつた。そしてKの活々した

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

眼を見て相對して話してゐる内に、活々してきた。
美津は、また、之から先自分も研究するつもりだといふこと、若しかするとこの春から東京に出ることにすることを折入つてKに話した。
Kは美津の話を快（こゝろ）よく聞いてゐたが
『なに決して心配しなくたつていゝどうかするから』
とKは美津に力を付けてやつた。
それから美津は、Tの其後はどうしてゐると聞いた。
『Tもすつかりおとなになつてしまつた。そして以前のやうに遊びにも來（こ）ない』
と話した、そしてまた、
『今思ふとTだつて別に變つた女でも、なかつた。まあ、普通の女がちよつと、ヒステリカルなときに出合つてゐたときに、物好きに私にちよつとぶつかつてみたのだね。併し随分眞劍だつたね。恐らく私が元のやうに今から一歩あの女に立入つてみると、あの女はやつぱりひどく動搖するだらうよ。私はそれだけに罪なことをしたやうで今でも心苦しい』
とかう言つてKは笑つた、そしてSのその後を話してくれた。

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

Kの話によるとSはその後度々上京したらしく、Kも二三度逢つたと言つた。それでもやつぱりあなたのことはよく口にして居た』

『何でも、あなたが西の國の旅へ一所に連れていかなかつたことを怨んでるらしかつた。それでも

美津はふと一年前の夏、××市で逢つて、一寸した感情の行違いから、別れてしまつた友のことが浮んできた。美津はSを西の國の旅へ連れて行き度くなかつた、美津自身の感想をかいつまんでKに話した。

Kは默つて聞いてゐたが

『さうだらう、美津さんの氣持ちは私にもよく解る』

と言つた。

Kはまた、Sが近頃天狗様を信仰してゐるといふことを話した。

美津は初めから面白く聞いてゐたが愈々、天狗のところへ來ると可笑くなつた

『それでねこの間こんな、お天狗様が手拭に乘り遷つたつて、それは大變な騷ぎさ』

『へえ』

『何でも手拭の角の方へ恰度描いたように、形がちやんとでゝゐる、まあこんな風に』

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

と傍にあつた原稿紙に形をかいて見せた。
『へえ、いよいよ驚いた！』
『女の肌拭く、手拭なんかに乗り遷る天狗なんて、餘程鼻下長な天狗だね』
と言つてKは肩を搖つて笑つた。
『それからまだあるんだ。この四五日前、上京して、Tの宅へ居たさうだが、二日前にTの宅を出たぎり、今だに歸つてこない、そしてTあてに、――この間は世話になつたといふような禮狀がとゞいた。しかも行先はさつぱり解らない、けれどスタンプはS市だつたさうで』
『全體どうしたつて言ふの』
『それがさつぱり解らない』
『私のことを何とか言つてましたでしよう』
『えゝ、怨んでゐたやうですよ』
『MとYとはまだだらうか――おそいなー』
と美津は思出したやうに云つた。

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

『ふたりともきつとくるやうに言つてましたか』

『えゝ』

『じやこの時間にお出になります』

と言つてKは机の上のエメラルド色の玻璃の美しい時計のVIの字を指した。

Kは時々こんな豫言者みたやうなことを言つて煙に卷くが、またそれが不思議に當るので美津はいつも面白がつて居た。

Kは書棚から、サロンの新らしい繪の寫眞板や、歌麿の版畫などをたくさん出して見せた。

『どうして昔の人はこんなに巧いんだらう』

美津はさも嗟歎するやうに言つた。

かうして二人が話しこんでゐる内に、いつの間にか電氣がついた。書棚に積んだ洋書の金文字が美しく輝いている。新らしい家――若い主人――藝術の人――かう想つて美津は何とも言へぬ快さを覺えた。

折りをり、電車の光りがぱつと窓のすり硝子に照る。鐵車の軋り、人の聲、あらゆる都會の雜音が、幽かに夢のやうに聞えて來る。都の街としては閑靜なKのすまゐは家の前を通る人の足音が手に取

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

るやうに聞える。小供の馳けて行つた後、二人ばかりの足駄の音がした。二人とも耳をそばだてたがそれは違つた。十分ばかりして後また二人ばかりの下駄の音がした、Kは『いらした』といつてすばしこく起ち上つた。

足音は果してMとYとであつた。ふたりはKが言つたやうに六時にきた。

室の内が賑かになつた。四人はそこの界隈の名物の笹巻きすしをつゝき合ひながら話した。

Kは淺草に行かうと言出した。四人は電車で出かけた。六區のイルミネーションは相變らず華やかであつた。

Kとは車坂で別れて三人はYのところへ泊るべく本郷の方へ歸つた。着いたのは十二時に近かつた。

明る日も早くから文展へ出掛けた。

博品館前でMに別れた美津は、銀座の本屋へ行くつもりで電車に乘つたが、廣小路まで來るうちに、急に氣が變つて、江戸川に乘換へて、三丁目で降りてM町のTの宅を訪れた。

前日Kから聞いたSの話がもう少しきり込んで聞いてみたかつたので。
玄關からTを呼ぶと、聲でそれと知つたTは二階から馳け降りてきた。が偉い勢に似ず取り澄ましてゐる。そしていきなり

『Sがきて居る』

と底にこもつた聲で言つた。

美津は思はずはつとした。この短かい句を暗を閃めく電光のやうに。

『歸つちやいけない、まあ、いゝからおあがんなさい』

美津はやつぱり呆然としてつゝ立つて居た。

美津がSに、或るインテレストを有ち初めたのは、燃えて、燃えて、燒き盡くさねば止まん火のやうな、彼女の感情であつた。彼女はものに感動して來ると、涙の有りつ丈けを盡して泣く女であつた、双の頰に流るゝ涙を拂ひもあへず泣く女であつた。近松や、西鶴の物語に有さうな、何だか古い物語でも讀むやうな感じがして、美津にはそこのところが面白いと思つた、Sを劇中の人物として見て面白いと感じた。Sの動作を劇として見なければ餘りに刺戟が強過ぎて直ぐいやになる。

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

火のやうな感情の搖ぎが彼女の眼に、口元に燃ゆるとき、そこに彼女の藝術味はあつた。そこに或る強い力が貫いてゐた。美津はそこに他を動かすべき潛んだ或るものを見出した。そしてその衝動はむしろヒステイカルに近かつた。その爲めに友人間には誤解され易かつた。彼女がよく他から、凄いとか、烈しいとか、評されたのも全くそのためであつたらしかつた。けれども美津はさう考へなかつた。むしろ女らしい女だと言ひたかつた。弱い、涙もろい女だと言ひたかつた。

昨年の夏、彼女は美津の故郷のK市に訪ねて來てくれた。

恰度そのとき美津は西の國の旅を思ひ立つて居たところだつた、そしてSも一所に行く筈だつたのが、一寸した感情の行違ひから、ふたりは、その場限り別れてしまつた。

初め美津は、Sが來るといふ知らせを手にしてから、ほんとうに心待ちにまつてゐた、そして愈々けふの晝に着くといふ電信を受けたときには、大きな歡を期待して停車場へ出迎へた。

軈てその車が停車場を轟かして這入つたとき美津の眼は、改札口を出る旅客の一つ一つに鋭く輝いた、そして美津の心には笑顏の人が、今にも自分の眼前に現れるのを想ふて何となく、穩かでなかつた。旅客の群は幾人か、美津の前をすぎた、けれどもSの影は見えなかつた、凡ての旅客の群の列が

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

最早や盡いて無くなつたとき、今までの緊張してゐた心が一時にゆるんで、美津は力なくそこを去つた。

美津は裏切られたやうな腹立しい感情がこみ上げてきた、つまらなくなつたのでその足で、折から歸省してゐたMの宅で夕方迄遊んだ。

赤い夕陽を踏んで歸つて見るとその留守にSは、ちやんと來てゐた。汽車の時間を美津が間違へてゐたのであつた。

以前SはMを快しとしなかつたので美津が遊びにいつたのを甚だ不愉快に思つた。そして美津が故意的に自分を出し拔いたと想つた、Mが間にあつて裏切つたと思つてしまつた。

美津が、わけを言つても、Sは容易に解けてこない、しかたがないので話題を他へ轉じたがそれにはSは應じなかつた。そして美津がいやだと思ふつてゐる昔の頁を引張り出してMのことを笑つたり、見當違ひの讃辭をされたりして美津の反感を買つた。

この時程美津の眼にSがつまらなく映つたことはなかつた。

Sはまた、美津が默り込んだり、氣の無い返事をしたりするので、甚だ物足りなく思つた。そして考へた——美津はいつの間にか自分を遠退いてしまつたのではあるまいか。既う昔の友情は無くなつ

たのではあるまいか、ふたりは別々な思想と、趣味とに呼吸づくやうになつてしまつたんではあるまいか、――別々なことを別々な室で思つてゐるやうになつたかも知れない。もうこの先はだめだらう、もうふたりの關係は交叉線の關係なんだらう、どこまでいつたつてかち合ふ樣なことはない、時が經てばたつ程に益々遠退いて行きつゝあるんだ。

Sはこのとき程美津を恨めしく、また一面反感を有つて觀たことはなかつた。

Sはいろいろの方面から美津を刺戟して見た。然し美津はSの心が讀めれば讀める程、激する氣になれなかつた。Sの隨分激しい言葉に對しても。

それから五日目にSは夜汽車で去つてしまつた。美津はSの氣象を知つてゐるので別段それを止めなかつた。

それでもいざ汽車が出るといふ間際になると、

『病氣のときには知らせて下さい――』

と言つた。

あゝ迄口では強いことを言ひながら、優しい言葉を遺して去つたSの心根がいぢらしいやうにもあつた。

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

かうしてSとは別れた限り、けふまで一ヶ年も無沙汰である。手紙も來なければ、出しもしない。Sが最後の言葉に興味をもつて、電報引いて見やうかと思つたこともないでもない、――この電信がどんな具合に響いて、どんな具合にSが反應するか――時にはそんな氣紛れなこともあつた。

『逃げちやいけない……さあお上んなさい』

Tは再びかう言つた。

この時、八つになつた芳ちやんが美津の姿を見ると

『美津さんが來ててよ』

と大きな聲して二階の方へ走らうとするを美津は、あわてたやうに芳ちやんを引とめた、そしてどうも運命だ、致方がない、會つてみなけりやならなくなつたのだと心のなかで囁いた。

この間に稍回復した美津はTの後からついて上つた。

折からこちらに來かゝつてゐたSと、鴨居のところで顔を合せた。

『暫く!!』

二人とも普通の調子で言つた。

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

美津は斜に座つてゐるSの横顔を見た。髪を引つめていつてゐるせいかけふは二つも年をとつたやうに見える。

『きのふね、夢見ちやつたの』

『どんな』

『悲しい夢なの、晝になつたらさうも思はないけれど、夢にはさんざん泣されたの』

『Tさん、さう涙なんか、安つぽく流すもんじやなくつてよ』

そろそろ、初まつたかと思ふと美津は可笑くなつた。

きのふ、Kに逢つた話をすると、Tは出來る丈Kのことを詳しく聞かしてくれとせがんだ。美津の話の尻を追廻して、それからそれへと聞いた。

稍傾きかけた太陽は窓障子に強く射付けて、狭い室は、蒸すやうに熱い。

美津は双の頬のほてるのを覺えた。そして長く座つてゐることの不可能であるのを知つた。ある苦しさを覺えた。

美津は時計を出して見た。そして

『これから、私は帝劇に行かなくちやいけない……約束だから……じやまた來ます』

Digitized by Google

Original from
CORNELL UNIVERSITY

美津は立ちかけた。
Tは
『誰と？』
と聞いた、續いて
『も少しいゝでしよう、話しがあるから』
『じや一所に行きませう…「夜の宿」いゝでしよう、それにKさんも一所だからなほいゝじやありませんか』
Kさんと聞いてTは感傷的な表情をした
『じや私から、Kさんによく言つて上げましよう』
かう言つてTの宅を出た。

Yは學校の用事で遂々行かれなかつた。
その夜は天長の祝賀日なので街は灯と、人とで一ぱいであつた。
電車は中々手間どつた。先の車へ乘替へ乘替へ急いだ。

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

帝劇へ着いたときにはもう既に幕があいてゐた。メドエデフらしいお爺さんが暗い舞臺に立つてしきりにしやべつてゐた。

Kはいきなり

『いゝ舞臺面ですね』

といつた。

「地下室の宵」のカーテンが降りたとき、Kは

『あッ！Hさんが』

と言つて席を立つた。何か話してゐるらしく劇の終る迄歸つてこなかつた。

暗い暗い人生、悲慘な舞臺に乘る深刻な、痛切な、生の活劇、わびしい貧しい、慘憺な、暗闇の中に、しかもあらゆる生の強さと、生の緊張とを示した人生の大なる勝利の生活、それがしんみりと美津の頭にしみ込んだ。あの薄暗い背景の前に動く人物も、言葉も、舞臺も、全體を統一して流るる、或る強い何物かもみんな、大天才の頭を透過しては生きてゐる。暗い暗い、背景の前に美しく生きてゐる。

劇の終つたのは十一時すぎだつた。

Kは電車の内で、

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

『まさかHさんが來てゐやうとは思はなかつた――Hさんから話聞かされて泣かされて、しまつた』

この夜はKの宅へ泊る約束だつた。

三人は明るい室に眠つた。

その翌る日の夜、美津とMとは同じ汽車で、歸ることにした。

その日は一日四人して、街を歩き廻つた。

夜の停車場でKは、ふたりのために、白秋の小詩をうたつてくれた。

發車のときKは餞別と言つて美津に渡した。それには、

愛する好漢美津ちやんの立つ夜、

――餞別――

旅役者

それは私達の名であつた。

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

道化者
それも私達の名前だつた。
正直者
全く私達はさうであつた。全く。
人間
さうだ私達は作られたものだつた。
だから私達は仲間を尊敬しなければならない。愛さなければならない。どんなときでも。どんなときでも。

さようなら。

之も原稿紙にペンで書いてあつた。
かうして、美津は友と別れた。東京と別れた。
汽車は搖ぎ出した。窓に寄つて外を見てゐたMが、美津の傍に掛けたとき、美津は、Mの眼に涙が一

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

ぱい溜つてゐたのを見た。

汽車の内で美津は、Mを××驛あたりまで送つて行かうかと言出した。そして、××驛へ降りて一晩宿屋へ泊らうかと言つて、旅行案内を繰つて見たが、夜中で都合よく行かなかつたり、又歸る汽車の時間が惡かつたりしたので遂々止めにしてしまつた。

××驛で美津はMに別れて、××行の列車へ乘替へた。

忽ち、美津の眼にはU市の寂しい街のさまや、生活のさまが、暗を閃めく映畫のやうにそれから、それへと映つた。

美津には今迄にないやうな寂しさがこみ上げてきた。

軈て汽車は搖ぎ出した。

美津は片隅に、靜かに眼を閉ぢた。（完）

一九一四、四、一〇、

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

いたづらな雨

尾竹一枝

雨はふる。雨はふる…………雨はふる
ほんとにしんきな雨はふる。

三味線問屋の土藏の壁に
ふつては消へ消へてはふる陰氣な雨
さんの絲のきつい音じめにふる

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

ふざけた仇な小雨
よくもふる、じんきな雨。
雨はふる…………雨はふる
かはたれ頃の芝居の河岸に
ほんにしんなり消えてゆく
芝居茶屋の「みどり」の行燈に灯をいれて
かちかちかちと火をきつてゆく
なにもかもすぎた意氣な中年の女の
しゆると結た黒襦子の晝夜帶
その腹合せにふる
あだつぽい、じんきな雨。
雨はふる、陰氣にふる

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

馴れそめた馴れそめた女のここに
しけこんでゐる男のきまぐれに似て
ふざけた姿で消えてゆく

雨はふる、雨はふる
美くしい娘の戀心のかげによりそうて
緋縮緬の針山にちつくりさされた
十一本の銀の縫ひ針の
みみづをくぐつて消えてゆく。

もの思ひする美くしい娘
宵にみたた京役者「蔦女」のふいとした姿
いきなくまどりの黒くはりのある眼のあたりの

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

青い色

その「くまごり」の陰にそとより添ふて
やるせなく深い吐息つく
優しいきれいな帶くける娘
物懶げに頰づくあたりに
からかふように、ふざけてふる
しんきな雨、よくふる雨、消える雨。

雨はふる雨はふる
ほんとに、しんきに雨はふる
可愛いおしやくの「きんちやん」の腰に
眞赤鹿の子の紐が燃え
小さなつぶの金の鈴が

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

こましやくれた音をならして
消えてゆく………雨はふる。

しんきな雨、ふざけた雨
ゆうべつめられた左の腕の紫色の傷が
ふざけた「よなか」を平氣でしやべつてゐる
みかへしのくぐり戸から土藏のやねに
雀が濡れてとんで
チユチユチヨンとないてゐる
消えてゆく、消えてゆく
雨がふる、雨がふる。

しんきに降る、雨がふる

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

ようも飽かずに雨がふる
晝も夜もあさも
なんべんとなしにくどく手持ぶさな男のように
しつこう、きざに雨がふる

雨がふる消えてはふる
雨はふる、雨はふる、雨はふる。

六月廿四日大阪にて

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

編輯室より

今度の號の編輯には隨分まごつかされた。神近さんは月初めの九日に歸鄕してしまつた。その前から犬吠岬に行つてゐた尾竹さんは、歸京すると間もなく、今度は又た大阪に行つてしまつた。それで否應なく編輯の雜務が小林さんと私との上に落ちて來てしまつたのだつた。

此號には劇に關する諸先輩の御感想を載せるつもりで、尾竹さんが大阪に行く前に手紙でお願ひしておかれたのだが、何分にも時日が切迫してゐたことだし、お願ひはしてあつても、確かにそれが戴けるものか如何かも解らないので、後を引受けた私達は隨分困つた。それで兎に角戴けた分だけを載せることにした。

小山内氏と松居氏と、小澤氏と、森氏とから大へん好いものが戴けて嬉しかつた。尾島菊子氏からも原稿を戴いたのだが、締切後のことで間に合はなかつたのは殘念であつた。

なほ青山さんの續稿も澤山來てゐるし、菅原さんの長いものも來てゐる。何れも頁數の都合で載せられなかつた。

何しろ後から後からと戴いた原稿を、一つ〳〵印刷所に廻はしたやうな譯で、統一もなく、順序も無茶苦茶だし、可成り蕪雜なものが出來上つてしまつたらしい。それは前の事情を推察して許していたゞきたい。

此號には挿畫を非常に多くしたので、頁數はぐつと減らさなくてはならなかつた。それも御承知を願ひたい。

挿畫は松居松葉氏を煩はして撰んで戴いた。お忙しい中から面倒な仕事をお引受け下すつた氏の御厚意を感謝する。

私は最初九州へ歸へる神近さんと一緒に、せめて京都までも同行する約束であつた。そして每年幾度となく其處を通りながら、何時も素通りしなければならない神近さんと、今度こそ京都見物をしやうと樂しんでゐた。私が旅行をしたいと思つたには、私一人の事情もあつた。其頃私は、何うしても旅行でもし

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

て氣分を新らしくして來なければ、とても其まゝでは生きてゐられないやうな氣がしてゐた。ところが行かうといふ間際になつて、私は行かれなくなつた。九日の午後三時五十分の下關行きで立つ神近さんを送つて、ぼんやり一人取り殘された私は、自分の一部を神近さんに持つて行かれたやうな氣がして寂しかつた。

それから私は一人で旅をして歩かうと思つてゐた。でも私にはいろ〳〵の仕事がある、雜誌の事に就いても尾竹さんと相談しなければならない、私はそれが濟んでから出かけやうと思つてゐた。と又、尾竹さんが足下から鳥のたつやうに、慌たゞしく飛び出してしまつた。私はあつけにとられて、ぼんやりとそれを見送つてゐなければならなかつた。私はとう〳〵旅に出られなくなつてしまつた。初夏の旅、どんなにそれが好いものだらう。おいてきぼりにされた私は、それを思つて一人いら〳〵してゐる。

そのうちにゆつくり旅をして來たいと希つてゐる。

（八木麗）

尾竹さんと神近さんに――

――考へて見るとずいぶんおかしうござんすね、まるで朝寐坊ばかり毎朝してゐる子が、ふいに寐てゐるうちにじぶん一人おいてきぼりにされて了つたといふやうに、うろ〳〵してやつと、こいだけの仕事をしたんですものねえ。あたしはね、――よりによつて、こんなぐずの、朝寐坊の、ぼんやりに、仕事をさせて下さつたあなた方を恨んでゐますよ。

そりあ忙しうござんした、まるで、こま鼠見たいに、忙がしうござんした。――といふのは表面のお話なの、ほんとうはね、八木さんがたいがいやつて下さつたんです。その忙がしそうなのを見てゐただけであたしも忙しいやうな氣がしましたの。八木さん一人でせつせと校正をしてゐなさるのを、平氣の平左で見てゐたほどののんきものですものねえ。そののんきがやつた仕事ですからまあどつか間のぬけてゐるのはあたりまいですね。だけど、まあかんにんして下さいね。

丁度時は初夏といふ時候で、町には、さわやかなそよ風がそよいでゐる――ちよいと氣どつたかつこうして燕がおどつてゐる――時たまには小雨がけぶり出す、――ねえ、遊びたいな、おもてへ行きたいな、とかうお腹の中で虫のさわいてゐるのをぢつと落付けて、ほんの二頁ばかりでも校正をしてゐた間のあたしの心持を買つてやつて、そうしていけないとこはがまんして下さいね、さよなら、

（哥津）

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

新刊紹介

四人叢書 生活の朝

現代社發行 定價壹圓

若月紫蘭、小野秀雄、佐藤緑葉、鈴木悦の四氏が新らしく起した四人叢書の第一編である。

「本書は、私達四人が各自の生命の營みの發表であります。四人が、こんな風に共力して一つの叢書を出すのは、四人が共力一致して或る藝術上の運動を起さうと言ふのではない。四人に共通な或る一個の藝術を育み、其存在を藝術界に、若しくは廣く人間生活の上に強請しやうと言ふのではない。四人は何所まで行つても四人である。各自に各自としての存在を主張すると同樣に、四人の藝術は夫れ夫れに其存在を主張するものであります。」

さう序に言つてあるやうに、一人一人が有つてゐる性格なり思想なりが、即ち個性といふものが、恁うして並べて視ることによつて、いよ／＼鮮明に、益々力強く表示され發現されてゐるのを面白く想はせる。

「私達は、各自に自分と言ふものを持つてをります。四つの個性は必ずしも互ひに全部的に相容れるものではない。が互ひに互ひを相當に理解し、尊敬してゐる。從て可成り厚い友情の發露を感じてゐるものである。四人が夫れ夫れに異る自己と藝術とを持ちながら、恰度同じ家に生活する家族のやうに、一つの書物の中へ、睦じく顔を並べることを苦痛としない所以であります。」

序は又恁う言つてゐる。

兎に角他人の編輯してゐる雜誌に寄稿するのではないから、作者の意氣込みも異ふと見えて、めい／＼が夫れ夫れに言ひたい事を思ひ切つて言つてゐる態度が嬉しい。

内容は若月氏の戯曲「狂人」「赤い花と蝶」佐藤氏の小説「過ぎ行く時」鈴木氏の小説「夢をたづねて」小野氏の戯曲「乞食の子」と、それから「醜の研究(ヘルン)」「グリユネ・カ、ドウ(シユニツラア)」の飜譯とである。

今此處に、その一つ一つに就て語ることは出來ないが何れも力の籠つた、意味は異ふが夫れ夫れに或る種のきらめきを有つた作品である事は明らかである。それぞれに特殊の意義を有ち從つてそれぞれに存在の理由と價値とを有つてゐるものたるは疑ひない。

一言にして言へば、何れも甚だしく思想的に進歩した、或ひ

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

はコンベンションを超脱した思想なり、人物なりの描かれた作物と謂ふべきであらう。

舊い頭腦の人はこれを讀んで、若い人の心に漲つてゐる新らしい思潮の如何なるものなるかを知ることが出來やう。そして又若い人たちは自分の裏にわだかまつてゐて、捉へやうとして捉へることの出來なかつたもの丶象ちを、はつきりと眼の前に取り出して見せられたやうな一種の快感を味はふことであらう。

此叢書が第二編第三編と次々に上梓されて、健全な生長を遂げんことを希望する。

涙より闘に　生田虎藏氏著　山口縣大田 曙光社發行

著者は教職にある人で地方で悠々自適の生活のうち、興に乘じてはペンをとつて居る人らしい。その生活を背景としたところにこの書物の價値もあるので、そのうちには人生社會に對しての批評あり、隨筆あり感想あり、韻文あり譯筆あり、要するに一貫したるものはなく同好の人々に分つべきもの、一著書として公にするには未だ徹底した何物も持つては居ない。中では夕日影の一章を面白くよんだ。

はつ夏（矢澤孝子氏作）　深江堂發行 金六十錢

ヱニスの商人（坪内逍遙氏譯）　早稻田大學出版部 金一圓三十五錢

新聞記者の手帳（小野賢一郎氏著）　美人大學社 金三十五錢

以上は〆切後御寄贈にあづかりしものによりくわしくは次號にて御紹介いたします。

寄贈雜誌

早稻田文學　白樺　帝國文學　青鞜
反響　エゴ　近代思想　生活と藝術
風景　蛇の舌　藝美　假面
新思潮　歌舞伎　その他

謹告

編輯に關する用件及寄贈圖書雜誌は左記宛に御願ひ申上候

東京市下谷區下根岸八十三番地
番紅花編輯所

■本誌定價　一册金參拾錢（郵税一錢五厘）

■前金購讀料　（三册分）金九十錢　（六册分）一圓八十錢　（十二册分）金三圓六十錢、郵税は發行所に於て負擔す。

■廣告料　普通一頁　金拾五圓　特等　金貳拾圓

大正三年六月二十九日印刷納本
大正三年七月一日發行（毎月一回一日發行）

禁轉載

編輯兼發行人　東京市日本橋區檜物町九番地　西村辰五郎

印刷人　東京市京橋區新榮町一丁目二十一番地　佐藤保太郎

發行所　東京市日本橋區檜物町
電話本局一八七一番
東雲堂書店
振替東京五六一四番

文祥堂印行

Digitized by Google

Original from
CORNELL UNIVERSITY

月刊

生活と藝術

七月號内容

伊庭孝

脚本 **藝者屋町** 四幕

現實描寫の劇也。或は社會の方面描寫として見るも可、或は脚本の與ふる境界の情調を開くも可、或は作者獨得の處生觀、戀愛觀を窺ふも可。然れども作者の標的は、記述にあらず、氣分にあらず、思想にあらず、人間の再生にあり。彼は極めて謙遜なる態度を以て自然を看取せんとせり。されば作中の主要人物の描寫が、孰れも類型を脱却し得たりとすれば、作者の望は足る。豈徒らに日本キモノの劇を學ぶものならんや。作者自白。

■定價一册金十八錢・送費一錢■

發行所 東京市日本橋區檜物町九（振替東京五六一四番） 東雲堂

阿部次郎著

三太郎の日記

■再版發賣■

綠色總和布裝幀
函入紙數六百頁
定價金壹圓
送費金八錢

■弱くしてやがて強き人間の心を語れる書なり。
■寸毫も被ふ處なく自己を正視し解剖せる書なり。
■暗黑と失望と憂愁より光明と歡喜と愛への經過。
■虛妄と浮薄を排し眞理の愛護と眞生命の樹立と。

著者が事物の實相を凝視し、自己の眞性を解剖し、實在の本質に沈潜する眞摯にして遜讓なる態度は何人に向つても、輕浮と淺薄と傲慢とを振り棄てさせずにはおかぬ。著者は實に謙遜なる個性の愛護者であり、勇敢なる眞理の熱求者である。理智の戯を拒否する誠實なる內省の體驗者である。
著者は實に喧噪なる外面道德の專橫と虛妄とを排し、精神の皓潔、心情の純眞動機の正直を尙ぶ內面道德の高唱者である。「三太郎の日記」は洵に、斯くの如き今の世類似の稀なる人格者が、その內生活を端的に披瀝したものである。その尊き思索の閃きは、各人の心に光と悅びとを與へずにはおかぬ。現代の最も卓越せる睿智を渴仰し最も深遠なる思想を瞻望し、最も崇高なる藝術を希求する人は必ずや、本書によつて、その渴仰と瞻望と希求との充足を感ずるであらう(帝國文學批評摘載)

■書肆は日本の思想界に斯の如き誠實なる著書を薦め得たるを光榮とす

發行所　東京市日本橋區檜物町（振替東京五六一四一番）　東雲堂書店

詩集

かなたの空

川路柳虹著

■新刊發賣■

四六版三百頁
總カット天金
黒と金と白の装幀
美術的製本
定價金八十錢
送費八錢

内容

■蘆の笛……十章
■低唱……小曲二十二章
■伸びゆく芽……十六章
■内心……十七章
■かなたの空……十二章

作曲（海の小唄）　山田耕作
カット　廣川松五郎
Exlibris及装幀　著者

最近四年間の勞作約八十篇を集めたる著者の第二詩集なり、著者の自序にも言へるが如く、本集の前半と後半とにては、其内容と格調とに著しき變化を示せり、前半の諸作が銀線のふるへる如く人生感傷の情を歌へるに反し、後半、殊に「かなたの空」に含める諸作に於ては、手を伸ばし、曉を望み、未知と未來の中へ飛躍せんと欲せり、本集が伊太利ミラノに萠芽せる未來派と如何なる點まで交渉するか、そは未知の問題なるも、全篇に共通する著者獨特の韻律と、辭句の烹練とは、前著『路傍の花』より一歩を進めたるが如し。（萬朝報批評再錄）

發行所　東京市日本橋區檜物町（振替東京五六一四）　東雲堂書店

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

新刊

平塚明序
伊藤野枝譯

■婦人解放の眞意義は果して如何?■

婦人解放の悲劇

婦人を解放せよ、婦人よ自覺せよ、婦人よ、天賦の才能を發揮せよといふ叫びはただ漠然と聞へる。この時に當り歐米先進國の婦人はその所謂解放の第一歩を實現した。そしてその結果はどうであつたか。彼等は更にその第二歩の解放に入らざるべからざる窮境に陷入つた。本書、エンマ・ゴルドマン、エレン・ケイ二女史の論文四種を譯輯せるもの、最も健全にして理解ある兩性問題の解決である。旣に我等に用なき因襲の羈絆を脱して女性本然の光輝ある生活に入らんとする勇氣ある女性、及び理解ある男性の一讀を切望す。

附錄

エルマ・ゴルドマン小傳
エレン・ケイ小傳

菊半裁二百七十頁頗美本
二女史肖像寫眞版挿入
定價金六十錢・送費六錢

■茲に健全なる兩性問題の解決あり■

發行所 東京市日本橋區檜物町九 (振替貯金東京五六一四) 東雲堂

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

六月十日 新刊發賣

新藝術の烽火

未來

新藝術の使徒

第二輯

定價金六十錢・郵稅八錢

寫眞版數葉・菊判三百五十頁

詩（創作）

三木露風
服部嘉香
川路柳虹
新城和一
西條八十
増野三良
柳澤健

譯詩

ブレーク 服部嘉香
レニエ 柳澤健
カンザンスキイ 灰野庄平
グレーク 川路柳虹
ベルレエヌ 新城和一
ボヘミア諸詩人 西條八十
ブレーク 山宮允
リグ・ヴエダ 増野三良

科學破産以後（評論） 服部嘉香
ポエーム（樂曲） 山田耕作
月の旅（樂曲） 山田耕作
スクリアビン論（評論） 山田耕作
滯獨小品（創作） 齋藤佳三
パヴロヴの印象（評論） 齋藤佳三
新音樂論（評論） 柳澤健
ウエデキントのパントミム（飜譯） 小山内薫
タゴーレの「無限の覺認」（飜譯） 灰野庄平
ドニーの（クラシックとしてのゴーガン及ゴーグ）（飜譯） 田中喜作
伸び縮み（創作） 新城和一
故片野文吉氏の「ルバイヤット」を評す 増野三良
イエツの『ブレークとその神曲の挿繪』（飜譯） 山宮允
イエツの「瑪瑙の切斷」より 山宮允
詩論（評論） 三木露風
藝壇時事評論 同人

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

■第一輯既刊■

未來

■殘部僅少■

定價六十錢郵稅八錢
菊判三百頁寫眞數葉

詩集

五十六編

女性外九篇……三木露風
手を伸ばせ外八篇……川路柳虹
雪景外十二篇……柳澤健
知見の塔外一篇……山宮允
TO R. M. 外二篇……SABURO MASINO
狂氣外七篇……新城和一
鷄頭外一篇……西條八十
空外九篇……服部嘉香

■詩歌の象徴(イエーツ)……山宮允譯
■ピアニスト・パツマン論……柳澤健
■緑に搖る空へ(戲曲)……灰野庄平

■分裂(小說)……新城和一
■智慧樹(東方詩劇)……增野三良
■領土(小說)……西條八十
■醉ひどれの船(ラムボオ)……柳澤健
■タゴールの詩……灰野庄平譯
■アルベエル・サマンの詩……新城和一譯
■リズム論……服部嘉香
■エル・ハアレンが詩の徑路……西條八十
■製作……川路柳虹
■見、不可見……灰野庄平
■曲譜……山田耕作

■

未來主催

音樂大演奏會

七月十二日
於帝劇裏保險協會

(詳細第二輯誌上掲載)

■

發行所

東京市日本橋區檜物町九番地
電話本局一八七一・振替五六一四

東雲堂書店

■

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

層雲第一句集

荻原井泉水選著

—七月上旬發兌—四六版約三百頁—定價七十錢—

□夜を支配してゐた月が褪せて黎明の光がさし初めたやうに俳句界は今しも朝を迎へやうとしてゐる。

□私達、早く目覺めたものは舊い因襲の床を脫け出して廣い土の上に出たのである。

□此の爽やかな空氣、東の空の美しさ、私達の胸はおどる。

□「歩々に樂しく露に滿ちて、歩々に咲く花の新しさ」——そのやうな心持で私達が摘み集めた花が此の句集である。

□內容□

◉選句——新しき人々の句（約千首）

◉習作——叡山の二日　悲報明易うせり　三日の月悲し
秋田の會へ　北陸の會へ　富士の二日
けふも書齋より　机にうつる青空　行春の一夜

◉俳話——（約五十頁）

發行所　東京市日本橋區檜物町九　振替東京五六一四　東雲堂書店

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

近刊豫告

現代佛蘭西詩集

リラの花

與謝野寛譯
梅原良三郎畫

現代の佛蘭西詩人中、新進のロオメン、ワウケエル、ダウリヤツク、シマル、ボルセエ、トルバン、ワアド女史、ケネアン、トラボルト女史、バンヌロオ、マンダン、メリエ、プロツシユ、テイボオル、ドレエム、アウグマアル、メルシエ、トツサン、ドロマア夫人、バサン、デスプラス、フレミエル、サントクロア、ドクトン、アラン、ビゼ、ブツテイ、マルテイネ、ヱシエル、ラヱエ、デイギヤツク、ボルドリイ、サウケ等數十氏の近作を主とし、ヱルレエヌ、ボドレエル、マウパツサン、サマン等の故人、ヱルアラン、レニエ、ノアイユ公爵夫人等の現代名家、及び伊太利詩人ダンヌンチヨ、マリネツテイ諸家の詩篇を此集に收む。是等は譯者が概ね巴里ラタン區の珈琲店クロツスリイ・ド・リラの一隅の卓に凭りつゝ讀みたるものなれば、記念として「リラの花」と題したり。

發行所　東京市日本橋區檜物町（振替東京五一六一四番）　東雲堂

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

柳澤健著

詩集 果樹園

未來叢書第二編

近刊

音樂的情操を有する點に於て此著者の如きは方今の詩壇に稀なり。其詩は白日の中の噴水、柔かき玉となりてしたゝり彈くに似たり。生を愛すること情人の如き、其聲の何ぞ娓々として哀婉なるや。加ふるに著者の叡智ある資性は、其表はすところの生を最も智惠あるものにしたり。純粹に生の美を愛し且つ詩壇の乾燥に倦む者は、乞ふ來りて本書に就け。

著者裝幀・四六版 三百頁

定價八十錢・郵稅 六錢

發行所 東京市日本橋區檜物町九（振替貯金東京五六一四）東雲堂

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

繪と歌の會

東京美術學校の出身で、特殊な内容さ特殊な技巧から絶えず新らしく生れ出ようさする人さして、私達は、廣川松五郎氏の若々しい藝術を愛します。
今度裝飾風な描法で、自由な、奔放な、そして氣品の高い、おらんだ鸚哥の小唄に似た美しい絹の繪に、現代の歌人數氏に近作を自書して貰つて皆樣にお分けしたい爲め、畵會を催される事になりました、繪さ歌さ相まつて、それぞれに深い情趣をたたへた可憐な裝飾品さなる事さ信じます、どうぞ愛好者諸彦に汎く御入會の程をお願ひいたします。

大正三年六月

發起人
森林太郎

賛助員
岡田三郎助
有島生馬
高村光太郎
藤嶋武二

内規

○床懸け尺二の絹本で瀟洒な領布で表裝いたします。(お望に依つて仝じ位な扁額にも致します但しこれには表裝を施しません遠い荷造りに厄介ですから)

○歌人は
　與謝野晶子氏
　尾上柴舟氏
　吉井勇氏
の三氏さ定めます。

○價格は何れも一口　金拾圓であります(地方郵税共)

○繪の取材や歌の選擇は一切筆者にお委せ下さる樣、ただ歌人を誰れさ云ふ事だけは御申越下さい。

○それに、御入會なさる方の證さして半價を申込さ一緒に御拂い下さい。中途で止された方には其金はお返し致しませぬ。

○作品は拾月中旬に〆切り同時に三越吳服店(或は其他)で一般に展覽した後で申込順に依つてそれぞれ殘金引替へに作品をお頒ち致します。無責任な畵會さ同視されるさ大變ですから特によくお含み置を願ひます。

○展覽會は改めて御知らせ致します。

○入會申込所は　東京府下豐多摩郡澁谷町下澁谷一八三七
岡田三郎方
であります。——MATSUGORO.——

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

■新思潮■

七月號

七月一日發行

■演劇の單純化（評論）……桝本清

■蝕める青春（四幕）……久米正雄

■人形芝居（シモンズ）……半田良平

■未來派と劇場（マリネツテイ）……山本有三

■ブレークの言葉（ブレーク）……山宮允

■桑の實（小説）……井出説太郎

■婚禮當夜（喜劇）……小島辰夫

■遍路に序して（感想）……石川宰三郎

發行所 東京日本橋區本銀町三ノ二 振替東京一二〇五五番 啓成社

定價一部廿五錢 郵税一錢五厘

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

月刊美術雜誌

みづゑ

第百十三

七月三日發発

一部金廿五錢

みづゑは本邦最古にして且つ唯一の水彩畫專門研究雜誌なり

水彩畫を描く人は勿論愛好せらる丶諸氏は一日も本誌を坐右に欠く可からず

□尾之道千光寺（水彩畫原色版）……中澤弘光
□兩國（錦繪原色版）……歌川廣重
□先斗町（水彩畫原色版）……相田直彥
□靜物（仝）……後藤工志
□ホタルガ應用圖案（水彩畫寫眞版）……織田一磨
□風景（仝）……望月省三
□其他水彩畫寫眞版數葉
□霧と雨と雪の美術家……小島烏水
□書の手帳から……坂本繁次郎
□十人十色……鵜澤四丁
□巴里より……山本鼎
□追憶の傳說……磯萍水
□新三脚物語……鵜澤四丁
□色の話……中村不折
□昆虫を應用せる圖案……織田一磨
□ミレー傳……武田雨水
□其の折々……後藤工志
□高野物語……佐竹士節
□研究所たより……

發行所　東京小石川關口駒井町三　振替口座東京六九六三番　春鳥會

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

自畫像

七月號

■表紙繪（ゆきを）

ゲーテの變愛（ジムメル）　小熊虎之助

彼の日（詩）　ゆきを

船室の一夜（小説）　木村幹

サ・エ・ラ（詩）　菊池香一郎

譯詩數章（詩）　世良田進

捨てられて（小説）　木村幹

葉太郎（小説）　宮下桂子

蛙（詩）　基樹

夢と戀と（セラオ）　久保寒三

ゴールウェー平原（イエーツ）　萬古刀

■七月一日發行（定價金廿五錢）

發行所　東京府下西大久保七八　菊池方　自畫像社

發賣所　東京市神田區南神保町十六番地（振替口座一九三四四番）　尚文堂

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

スヱデンボルグ著　鈴木大拙先生譯

新エルサレムとその教說

三六版箱入　定價六十錢　郵稅八錢

此書は思想界の奇傑スヱデンボルグの新基督教說にして救濟には信と行とを要すること愛即ち意志は人格の基礎なること自由あるが故に善惡あること善惡あるが故に神の榮光彰はるゝこと等の諸說を簡明適切に述べたる快著

學習院教授　帝國大學講師　鈴木大拙先生著

スヱデンボルグ

三六判箱入　定價五十錢　郵稅六錢

天界地獄の遍歷者、神祕界の大王、古今獨步の千里眼、神學界の革命家として世界の一大勢力を成したるスヱデンボルグの性行閱歷思想、事業を詳述してこの奇傑の面目を躍如たらしむ

スヱデンボルグ著　鈴木大拙先生譯

天界と地獄

菊判和裝　價一圓五十錢　郵稅十二錢

歐米の思想家宗教家を驚倒せしめたる名著にしてスヱデンボルグが天界及び地獄を遍歷し親しく目擊感得したる事實を詳述したる奇書なり

鈴木大拙先生著

禪の第一義（三版）

定價一圓　郵稅八錢

東京小石川原町六　振替東京一五六八六　丙午出版社

東京小石川原町六　振替東京一三五三　鷄聲堂

Digitized by Google

Original from CORNELL UNIVERSITY

第二巻
第七號

エゴ

第七月號

六月一日發行
定價金廿五錢

目次

家出（脚本五幕物）　千家元麿
手紙（感想）　武者小路實篤
苦痛に付いての雜感　岸田劉生
グレコに付いて　佐藤惣之助
存在の惱み（感想）　土屋小介
感想　千家元麿

挿畫目次

グレコの肖像　グレコ
トレドの風景　同
聖ペール（表紙）　同
聖マタイ（裏繪）　同

發行
兼編
輯所　東京牛込區新小川町三ノ三一　エゴ社

定價二十五錢

青鞜

七月號

郵税一錢五厘

■面目一新せる七月號■

戀愛の自由　エレン・ケイ
女ばかり　哥津
下田次郎氏に與ふる書　野枝
氣色はむごき　岡本かの
夏の花　齋賀琴
七日間の旅　らいてう
ソニア・コウ゛アレフスキイの自傳　野上彌生子譯
題未定　岩野清
背景の男　松井靜代
「離婚せる四十女の思ひ切つた告白」を讀んで　上野葉
ためらい　三ケ嶋葭
夏木立　矢澤孝
廣がる愛　生田花世
最近の感想と讀んだものゝ評　{らいてう・みどり・野枝}
編輯室より　らいてう・野枝

■編輯者　らいてう・野枝■

發賣所　東京神田表神保町（振替東京二七〇）　東京堂

發行所　東京巣鴨上駒込四一一　青鞜社

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

七月一日發行

アララギ

定價二十錢

○異郷（詩）……山村暮鳥
○噴水卓上（詩）……室生犀星
○曉の驟雨（歌）……西村陽吉
○くさめ（歌）……島木赤彦
○蜂（歌）……古泉千樫
○眉間の光（歌）……中村憲吉
○こころづま（歌）……齋藤茂吉
○おたまじやくし（歌）……齋藤茂吉
○移光（歌）……平瀬泣崖

○斷片（長詩）……木下杢太郎
○初夏の道化役者（長詩）……木下杢太郎
○鍼の如く（短歌）……長塚節
○杏林叢書序……呉秀三
○ワイニンゲル語録……赤木桁平
○萬葉集短歌輪講 其二……赤彦 千樫 憲吉 茂吉
○短歌雜論……齋藤茂吉
○良寛歌集私鈔 其二……齋藤茂吉

短歌

土田耕平　赤津紘　柿崎梧風　中原しづ
清水謙一郎　平沼ひさし　中村和吉　三村りゑ
柳本城西　結城哀草果　竹尾忠吉　唐澤うし
並木秋人　吉川かすみ　功力孤愁　山田ちま
森山汀川　草間俊　高田枯月　よし緒

誌友募集

普通誌友卅錢　特別誌友五十錢

東京青山南町五丁目八十一番地齋藤茂吉方

アララギ發行所

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

假面

■特價三十錢■

■郵稅金二錢■

第三卷第七號 七月號

■夏期特別號■

□イエエツ グレゴリイ及シンヂ（評論モオア）……西條八十
□悲しき生の自覺（小說）……見留周造
□抒情詩（詩サフオ）……日夏耿之介
□珍朶美尼（印度象徵劇ゴーズ）……松田良四郎
□京の紅京の人形（歌）……安永みち子
□裝飾美術論（評論ワイルド）……森口多里
□メレジユコフスキーの詩（詩）……松永信
□黎明（小說）……山川亮
□藝術家（小說チエエホフ）……紫田勝衛

假面社編

近代評傳叢書

第一篇 加能作次郎 ストリンドベルヒ

第二篇 瀨戶義直 ドストエフスキイ

久しく期待にそむきたる本書は愈七月一日を以て發賣せらる

定價金五十錢
郵稅金六錢

發行所 東京市牛込區早稻田南町九 假面社

發賣元 東京神田錦町一丁目十九 振替東京四一二三番 中興館

心の花

第十八卷　七月號　第七號

日本文明の曙光	杉亨二
ストリンドベルヒ論	吹田芦風
浴槽（小說）	岡部千代子
鍵（小說）	今井康子
闇の精（ペインの印度古詩より）	松村みね子
ひねもすのつこめ	釋宗演
八重雲	石榑千亦
わが歌	三浦守治
薔薇	柳川隆之助
手帳より	服部綾足
鬱金香（アルテンベルヒ）	吳野潮音
南獨乙の春の日	長紅雪
新百人一首新釋	志田義秀
萬葉集講義	佐佐木信綱
西片町より	佐佐木雪子

定價一部金二十錢・半年前金一圓・一年前金二圓・郵稅共

東京日本橋區　竹柏會出版部　本石町一ノ一

電話本局五一七〇番　振替東京四三〇〇番

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

我等

一年分 送料共 金三圓

定價 二十五錢
郵稅 二錢

短歌 七月號 募集

誘惑（小說）……萬造寺齊
芝居の夢（歌）……與謝野晶子
木下闇（歌）……原田琴子
雁（小說）……森林太郎
水のあなたより……無名氏
續眞實心經（歌）……吉井勇
春の遊ゝ夜（詩）……竹友藻風
グライヘン伯（シュシットボン）……茅野蕭々

東京市本郷區駒込林町一九〇
我等發行所

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

日本唯一の演劇通信學校

⦿男女俳優志願者の獨學機關
⦿現代演劇研究者の羅針盤

第一年第二號
六月十日發行

演劇講義錄

第壹期第貳號目次（毎月一回十日配付）

口繪　●二度刷印章押捺『會員章』添付●英國名優ロバアトソンのハムレット……その素顏……女優ヱリオットのヲフヘリア●故名優の俤「博多小女郎浪枕」九代目團十郎初舞臺と其後の毛剃、五代目菊五郎の惣七

本科講義　●「東西演劇の比較」（一六）高安月郊●「俳優入門」（二六）松居松葉　●「舞臺監督とは何ぞや」（一〇）小山内薰●圖解「舞踊研究」（八）藤間勘右衞門、松本幸四郎●「西洋最近演劇史」（一六）小宮豐隆●寫眞入「顏面の表情」本原型圖六葉ルドルフの基（八）北野京二●「イブセン研究」（一六）島村民藏●「列傳體日本演劇史」（一八）伊原青々園●「近代劇の解剖」（一八）楠山正雄

科外講義　●『勸進帳』の型（二二、完）松本幸四郎●勸進帳研究拾遺（一）●芝居の波と瀑と雨（六、完）長谷川勘兵衞●鬘の話（四）鈴木春浦●權威ある拍子木の音（四）竹柴▲○生●歐米劇場視察談（五）山本久三郎●船舶劇場と外國巡航劇場（一）●俳優たらんとする人に（五）柳川春葉●春葉氏と小說「片思ひ」（一）新らしい俳優の覺悟（六）上司小劍●女優成功の秘訣（二）●予が若し劇場支配人たらば（一）●劇界彙報（三〇）五月下旬の中央劇壇六月の東西劇壇五月下旬關西劇壇●不幸なる英國名優（四）●歌舞伎の實跡研究「河内山」（六）●脚本年表

雜錄　「妹脊山」と梗概河竹默阿彌作「野晒悟助」柳川春葉原作「片思ひ」樂天會喜劇「骨折損」破れ下駄「彫刻師」「惡戲將軍」右田寅彥作「靜御前古塚緣起」ローシー作默劇「金色鬼」曾我廼家喜劇「隣の洗濯屋」「黃金一枚」岡本綺堂作「陸奥の義經」嚴谷小波作「乳母車」●前號正誤（二）●會員消息（一）

目下入會金全免

見本規則

御申越次第進呈

東京市京橋區
玉木商會内

演劇研究會事務所（編輯事務取扱）

東京市日本橋區
數寄屋町九番地

鈴木書店（規則書及入會申込取扱）

Digitized by Google

Original from
CORNELL UNIVERSITY

大正三年二月二十七日第三種郵便物認可
大正三年七月一日發行（毎月一回一日發行）
番紅花第一巻第五號

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY